

令和6年度(2024年度)
熊本市こどもの未来応援基金助成団体
活動報告書

目次

1. 熊本市こどもの未来応援基金について

- (1) 助成概要 1
- (2) 基金への寄附について 2
- (3) ご支援頂いた皆様 2

2. 活動報告

(1) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（スタートアップ枠）

- 助産院メルティングタッチ 3
- 株式会社 スミール 5
- はっぴいろーどサポート 7
- わーくしょっぷ おにぎりく Love 9
- ベイベー・マミー・サロン 11

(2) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（企画枠）

- たけみやいもほりファミリー会 12
- 植木寺子屋山東塾運営委員会 14
- 白川小学校親児の会 16
- NP0 法人 こころサポート熊本 18
- Office38 WindBell 20
- 子育て支援サークル・くまもと 22
- 『Team 延壽院』 24
- 保育者の子育て塾 26
- 熊本食育の会 28
- 特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト・マスタース熊本 30
- ユニバーサル親子柔道教室 32
- NP0 法人子育て支援ワーカーズペペペペらん 34
- NP0 法人せいしとらんし熊本 36
- 一般社団法人子育てネットワーク縁側 moyai 38
- ひご Pecs サークル 40
- メンタルサポート研究所グループ熊本シャムロック 42
- プラダー・ウィリー症候群の子を持つ有志の会 42
- 親育ち支援の会 ポトフ 42

NP0 法人コロボックル・プロジェクト	42
NP0 法人寺子屋カフェくまもと	43

(3) こども食堂に関する活動

長嶺みんなの食堂	44
黒髪地域食堂「いちょうの木」	46
ちいきしょくどう	48
とよだ地域食堂りん	49
子どもが生きられる世界 ゆりりん食堂	51
こども食堂 おにぎりく Love	53
月出まんぷく食堂	55
一新コドモ食堂	57
地域コミュニティ食堂 Onn+	59
釜ぐみ	61
NP0 法人くまもと相談所	63
たくにしきずな食堂	65
むさし子ども食堂	67
認定 NP0 法人ポピンズくまもと	69
パティオ	71
縁側サロン竹ちゃんち	74
陽だまりの樹	75
桜木東食堂 陽だまり	78
Yell つながるカフェ	80
フードリボン IN どんぐりの森	82
ぷらっとほーむ	84
おーさぁ子ども食堂	86
力西こども食堂	88
はぐくみ食堂大江	90
一般社団法人こどもキッチンブルービー	92
子ども食堂ひまわり	93
ふじとみふれあい食堂	95
慶徳こども食堂実行委員会	97
地域食堂シュワーズ	97
清水子ども地域食堂	97
食の駅 のぐち	97
きずな	98

一般社団法人多世代交流スペース ミモザ	98
はじっこがない食堂	98
こども地域食堂まんまる	98

(4) フードバンクに関する活動

フードバンク熊本	99
熊本県地域こども食堂支援センターTSUDOU・NET	100

1. 熊本市こどもの未来応援基金について

「熊本市こどもの未来応援基金」を活用して、子育て支援活動をする個人や団体を支援しています。熊本市こどもの未来応援基金は、平成6年に熊本市エンゼル基金として、次の世代を担うこどもたちが、いきいきと、たくましく、健やかに育つ環境づくりに資することを目的に創設されました。

平成31年(2019年)4月から、こどもたちの未来の応援につながるものとして、「熊本市エンゼル基金」を「熊本市こどもの未来応援基金」へ名称を変更するとともに、新たに、こども食堂への支援を行うなど、助成対象を拡充しました。

(1) 助成概要

○広く全般に子育てや児童を支援する活動

対象事業	1 地域における子育て支援活動 2 児童の健全育成を目的とする活動 3 障がいがある児童を支援する活動 4 ひとり親家庭及び両親のいない児童を支援する活動 5 父親の子育て及び育児参加を推進する活動
助成要件	個人または団体の居所・本拠地が熊本市内であること
対象経費	報償費、需用費（食料費は除く）、燃料光水熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（上限総額2万円）
助成額	・スタートアップ枠：設立後3年目までの団体・個人 初年度5万円、次年度5万円 ・企画枠：特に効果的かつ先進的な取り組みで、他の模範となるような活動を行う団体 単年度上限10万円

○こども食堂に関する活動

対象事業	1 食事の提供を通し、全てのこどもが気軽に立ち寄れるこどもの居場所づくりを行う活動（新設・運営枠） 2 1のこどもの居場所づくりに加え、学習等様々な学びの支援を行う活動（拡充枠）
助成要件	1 熊本市内で開設するもの 2 開催時、常駐できる責任者を配置し、国等の通知に基づき安全面・衛生面について適切な配慮を行っていること 3 責任者とは別に、活動の補助等ができるスタッフを1名以上配置すること 4 3人以上で構成されていること 5 継続した運営をする意思及び能力を有すると認められること 6 こどもが広く参加できるように広報し、団体関係者等特定の者しか参加できない運営を行わないこと 7 定款・会則等を備えていること

対象経費	報償費、需用費（食料費も含む）、燃料光水熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（運営枠は上限総額 2 万円）
助成額	・運営枠：年間の実施回数に応じて上限額を設定 年 4～12 回 5 万円 年 13～18 回 7 万円 年 19～24 回 10 万円 年 25 回以上 15 万円 ・開設枠：上限 5 万円（申請年度内に開始することが確定した団体に限る） ※1 団体 1 回限り申請可 ※運営枠との併用可 ・拡充枠：上限 5 万円 ※1 団体 1 回限り申請可 ※運営枠との併用可

（２）基金への寄附について

次の①または②のどちらかの方法により、随時、寄附を募集しています。

①ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」・「楽天ふるさと納税」での申し込み

・「ふるさとチョイス」

<https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/43100>



・「楽天ふるさと納税」

https://www.rakuten.ne.jp/gold/f431001-kumamoto/?s-id=furusato_pc_area-kumamoto_f431001-kumamoto



②こども政策課へ寄附採納願いを提出

下記の寄附採納願いをこども政策課へご提出ください。納付書を送付いたしますので、金融機関（ゆうちょ銀行を除く）にてお振込みをお願いいたします。

（３）ご支援頂いた皆様

○令和 6 年度

計 20,847 件、計 246,897 千円

株式会社リアルト・ハーツ、地方卸売市場熊本東部青果株式会社、三和リース株式会社、株式会社 福德開発、株式会社 七草堂、株式会社 スマイルクリエイト、有限会社 マリオネット、株式会社 福德開発、熊本学園大学附属高等学校「NEXT NEXUS」、高校 OB 連合会、株式会社 C&S、熊本商工会議所 女性会、個人

(1) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（スタートアップ枠）

助産院メルティングタッチ

活動を始めるきっかけ/活動概要

近年、核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化、妊産婦の体格や体力の変化などにより、子育ての困難さを感じる保護者が増えています。そのため、家族だけでなく社会全体で子育てを支える環境づくりが求められています。

当助産院においても、乳児の発育・発達に関するご相談や、子どもとの関わり方についてのご相談が多く寄せられており、育児に悩みを抱える母親への支援の重要性を日々実感しております。

これまで当助産院では、産後ケア事業を通じて、乳児の発達支援や育児指導などを行ってまいりましたが、利用者の方々から「些細なことでも気軽に相談できる場がほしい」「他の母親と交流できる機会がもっとあれば嬉しい」といったお声を多くいただくようになりました。

こうしたニーズにお応えするため、2023年10月より、子育てに関する相談を気軽に行える『育児相談会』を開始しました。さらに現在では、利用者の皆さまのご要望を受け、

向きぐせと頭の形相談会、親子のリズム遊び、両親学級、ママカフェ、離乳食教室といった活動へと広げ、地域の子育て家庭をサポートする取り組みを進めております。

重点的に取り組んだこと/成果

昨年度は、のべ141名の方にご参加いただきました。

「赤ちゃんがなかなか寝ない」「発達に不安がある」「授乳がうまくできない」など、子育てに関するさまざまな悩みや不安を相談できる場を提供し、助産師が直接、赤ちゃんや授乳に関する相談に応じることで、参加者の方々から多くの感謝の声をいただきました。

また、「親子のリズム運動遊び」や「ママカフェ」では、ママ同士が気軽に交流できる場となり、ご好評をいただいております。

さらに、「両親学級」では、沐浴や抱っこ体験、赤ちゃんとの1日の生活リズムの紹介など、体験型の教室を実施しました。これにより、妊娠中から赤ちゃんとの生活を具体的にイメージしやすくなる機会となり、多くの参加者からご好評をいただきました。

課題/解決に向けての取り組み

近年、子育て家庭からの相談内容はより多様化・専門化しており、1歳を迎える頃になっても「ハイハイができない」「離乳食が進まない」「食べ物を丸呑みしてしまう」といった、個別性の高い育児相談が増加しています。

これらの課題に対応するためには、助産師だけでなく、管理栄養士や歯科衛生士、リハビリテーション専門職など、他職種との連携が今後ますます重要になると考えています。

当院では、今年度より新たに管理栄養士や歯科衛生士と連携し、保護者の方のお悩みに多角的に対応できる体制づくりを進めています。また、必要に応じて、適切なタイミングで歯科や療育、リハビリテーションなどの専門医療機関へつなぐ「橋渡し」の役割も担っています。

今後も、地域の子育て家庭に寄り添いながら、専門職同士の連携を強化し、切れ目のない支援を提供できるよう取り組んでまいります。

今後の展開

今後の展開としては、これまでの活動で得た経験や保護者の方の声をもとに、地域の子育て支援をさらに充実させていくことを目指しています。特に、離乳食が進まない、食べ方に不安があるといった個別性の高い相談に対応するため、管理栄養士と連携した「離乳食教室」を開催し、乳児期からの食育にも力を入れてまいります。

また、育児相談のさらなる充実、他職種との連携による専門的な支援体制の構築、妊娠期から子育て期までを継続して支える取り組みを進めていきます。

これからも地域の子育て家庭が安心して子育てできる環境づくりを目指し、助産師ならではの専門的な視点とあたたかな関わりを大切にしながら、育児相談・子育て支援に取り組んでまいります。

連携団体

理学療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士等、他職種と連携している

問い合わせ

		
https://lin.ee/rju18l8S	090-8280-3042 (担当者氏名：林田直子)	Melting.touch



活動を始めるきっかけ/活動概要

熊本市南区地域では、近年、共働き世帯の流入が増加しており、子育て世帯の孤立化が進んでいる。具体的には、子育てをされている方や、出産を控えている方(母親)より、妊娠・出産後の生活環境の変化による大きな不安やストレスを感じたという声を多く耳にする。そこで、子育て中の親同士のコミュニケーションを大切に、ストレス緩和に繋がる講座・ワークショップ等を実施することと、同年代の子どもが一緒に遊べる場を設けることを目的とし、一人で抱え込まない環境や、問題における不安解消、他者との交流や意見交換ができるきっかけの場づくりを目指す。

また、子育て相談や共働き家庭への保育所入園等に関する相談情報共有も個別に実施を行う。

重点的に取り組んだこと/成果

○アロマワークショップ 骨盤ケア

○離乳食作り

0歳児さんの参加について参加される時期が今年は重なっていたように感じ、リピーターさんも少しいたように感じたので続きの有る子育て支援活動を行うように取り組んだ。



課題/解決に向けての取り組み

集客の難しさや広告宣伝の課題を工夫して取り組んでいくようにする。



今後の展開

活動内容の周知を行い、産休・育休の保護者さんにとって子育てを楽しいことを地域のひとと子育てする楽しさをもっと伝えていくようにする。

2025年度 子育て支援 にこにこサークル Smile

(株)Smile小規模3園で子育て支援を毎月第2火曜日開催します。妊婦さんから子育て中の保護者さんとお子様。たくさんのご参加待っています。毎月のお知らせはInstagramを見てね

毎月 第2 火曜

時間：10：00～12：00

年間12回開催

お申し込み 場所：アドリエ施設「イハナ」〒861-4101 熊本市南区近見6丁目19-10 TEL.096-357-0565

お申し込み 場所：アドリエ施設「イハナ」〒861-4101 熊本市南区近見6丁目19-10 TEL.096-357-0565

活動内容と料金：

- 4月8日 座談会 場所:イハナ 無料
- 5月13日 アロマワークショップ 場所:イハナ 料金:1000-
- 6月10日 離乳食作り 場所:幸田公民館 料金:1000-
- 7月8日 アロマワークショップ 場所:イハナ 料金:1000-
- 8月12日 離乳食作り 場所:幸田公民館 料金:1000-
- 9月9日 親子ヨガ 場所:イハナ 無料
- 10月14日 骨盤ケア 場所:イハナ 料金:1000-
- 11月11日 離乳食作り 場所:幸田公民館 料金:1000-
- 12月9日 クリスマスツリー作り 場所:イハナ 料金:500-
- 1月13日 アロマワークショップ 場所:イハナ 料金:1000-
- 2月10日 親子ヨガ 場所:イハナ 無料
- 3月10日 足湯座談会 場所:イハナ 無料

2025年度 子育てサークル にこにこサークル 毎週第2火曜日 10:00>12:00

※内容によって場所と料金が異なります。

連携団体

とことこ保育園・みみな保育園

問い合わせ

✉	☎	f or 📷
kotonakannri@outlook.com	廣田絢子 (担当者氏名)	Smile_nikoniko_relaxtime Instagram

はっぴいロードサポート

活動を始めるきっかけ/活動概要

中小企業の就職採用に携わる仕事をする中で、若者の精神的理由による早期退職が多くなぜだろうと疑問を持つ中で、キャリア教育を知り子供達への体験活動などの必要性を感じた事がきっかけで活動を始めました。

社会へ出る子供達が、体験活動を通じて、SNS の情報だけでなく、自ら体験で学び、自分自身で選択し行動できるきっかけになって欲しいと考えています。

重点的に取り組んだこと/成果

まずは、社会へ出る子供たちに向けた講座を企画し高校への提案を行う事から始めましたが、実績もなくタイミング合わず、出来る体験活動から取り組みました。

子ども達の「たのしい」が将来の仕事選びへ繋がると考え、体験活動に協力頂ける講師や場所探しから取り組み、子供に参加してもらうには親にも知って欲しく親や子供それぞれに気軽に聞かれるような活動を行いました。

よくも悪くも親や大人が手伝う事で子ども達の経験する機会が減ってきていると感じます。子ども達が参加してくれた炊飯器で作るお菓子やご飯は火や包丁を使わず、子どもでも作れる手順で準備しています。この活動には社会人基礎力にそったプログラムを取り組んでおり、続けて参加してくれた事により、子供達も積極的に行動し協力しあう様子が成長に繋がっていると感じました。

課題/解決に向けての取り組み

継続的な参加や、幅広い活動内容の準備が難しく、数回で成果の得られる活動ではない事が課題ですが、少人数からでも広めていけたらと考えており、継続的に活動を行いたいと考えています。

今後の展開

幅広い年齢層の体験活動を増やして行きたい。

就職前の若者達との関われる活動につなげたいと考えています。

問い合わせ

		 or 
メール info@happyroadsp.com	(担当者氏名 前田 明美)	ホームページ happyroadsap.com

☆ 活 動 写 真



R6年7月27日(土)



R6年10月5日(土)



R6年12月7日(土)
生花で作るクリスマスアレンジ講座



R6年12月22日(日)
生花で作るお正月アレンジ講座



R7年2月15日(土)
コサージュ作り

わーくしょっぷ おにぎりく Love

活動を始めるきっかけ/活動概要

実施場所である熊本市南西部は核家族化や共働き世帯の家庭が増加している地域でそのような世帯やこどもを主な対象とし、子育て世帯の不安解消や地域全体で子育てを支える環境づくりを行うため、対象者に対し参加しやすい講座等を実施、子育て世帯の親の相談交流の場をつくり子どもの健全な育成を図ることを目的としました。



重点的に取り組んだこと/成果

煎茶講師を招き、煎茶の飲み方や上生菓子を食べる作法など日本文化の良さを感じてもらいました。

イベントで英会話講師を招きクリスマス会や節分を英語でゲームしたりして大人から子どもまで楽しめる事をしました。参加者同士が楽しく交流できる機会を多くの方に提供できたと思います。

課題/解決に向けての取り組み

子ども達に日本文化の良さをもっと知ってもらい、家庭でも緑茶を飲みたいと思える講座を開きたい。

また、イベントを実施することで高齢者と核家族の方との子育ての困りごとなどの不安解消に繋がればいいなと考えます。

今後の展開

SNS や掲示を増やし、参加者を増やしていきたい。

イベントなどを考えているので、高齢者と若者との交流を増やし地域社会のコミュニケーション円滑化を図りたい。

連携団体

熊本市西区中島校区 こども食堂まんまる

問い合わせ

		 or 
	(担当者氏名)	onigirikulove (インスタグラム)

団体名	ベビーマミー・サロン
活動を始めのきっかけ/活動概要	実施回数：38回 参加人数：894名 ママたちが気軽に集まれて息抜きができる場所づくりに取り組んでいる。育児論や周りの意見に惑わされず、赤ちゃんパパママの幸せな時間を大切に我が子とのココロからの触れ合いが出来る場所を目指している。
重点的に取り組んだこと/成果	SDGsでの次の項目を重点的に取り組んでいます。 また、他団体への普及活動にも力を入れており、使わなくなった絵本やおもちゃを様々な場所へ寄付する活動やフェアトレード活動をおこなっている。
今後の課題・展開	地域における多様な関係者を巻き込むことで、地域全体で子育てを支える環境を作る。3年後には、育児論や周りの意見に惑わされず、赤ちゃんパパママの幸せな時間を大切にできる、わが子とのココロからの触れ合いができる場所を目指す。
連携団体	特になし

たけみやいもほりファミリー会

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・熊本地震が起こった時、地域の皆さんが不安で日々を過ごす中、日頃から交流していることがとても大切であることを痛感しました。また、新型コロナの影響でちょっとした交流もできにくくなっていた状況でしたが、今は屋外でいろいろなイベントができるようになりました。
- ・近所には比較的たくさんの子どもたちが住んでいます。戸建てや、いくつかのアパートなどに越してきた世帯があります。しかも、小学生以下の子どもたちがたくさんいますが、周囲の私たちも含めお互いに声を掛け合うことができにくい今の世の中です。
- ・そこで、子どもたちとその家族と一緒に集まって楽しくイモ掘りができたら、親交も深まり、いざという時にも声を掛け助け合うことができると考えました。
- ・具体的な活動は、春のジャガイモ掘りと秋のサツマイモ掘りを近所の親子が集まって楽しく行います。

重点的に取り組んだこと/成果

- ・私は、この地域に以前より住んでいますが、ご近所の子育て世代の方とは挨拶を交わす程度でした。そこで、イモ掘り会の趣旨を説明し、気軽に参加していただくことにしました。
- ・初めは、どのような方が参加するのか遠慮する方もいらっしゃいましたが、お知り合いの家族も誘って参加していただくようになりました。
- ・回を重ねると、「参加したいと思っていたが、誘いの声を掛けてもらって嬉しかった。」というお声もいただき、少しずつ交流の輪が広がるのが良かったと思います。ご近所の方にもこの会の取り組みが少しずつ認識されてきているのだと感じています。
- ・また、今の子どもたちは土に触れる機会が少ないのではないかと思います。いもほりを通して土に触れて、自然に接してもらいたいと思います。そのため、いもの栽培は完全に無農薬で行っています。



ジャガイモの畑



ジャガイモの花



ジャガイモの花



参加者で記念撮影



サツマイモの収穫



参加した子ども



課題/解決に向けての取り組み

- ・近所には賃貸アパートが数軒あり、子育て世代の世帯が住んでいるのか把握が十分にできていません。そのため、イモ掘り会への参加の声かけを全てにできていない可能性があります。普段からの声かけが必要だと考えます。そのため、隣は声かけがあったが、自分の所はないという不平等感がないように、メンバーで情報共有し近隣の子育て中のご家庭に声かけを心がけて行いたいと思います。
- ・また、開催当初から参加していた世帯の子どもたちの年齢が大きくなり、参加をしなくなることです。中学生ともなるとさすがに喜んで参加はしなくなるでしょう。一方、年齢の小さな子どもたちは喜んで参加してもらえるので、そのような子どもたちがいる新たな家族の参加を促していきたい。
- ・近年、病気などの影響からサツマイモのツルがとても入手困難でした。今回は市外の販売店まで出かけてやっと入手できましたが、来年度も入手できるかはその状況次第となるので、その際は代替作物の収穫も検討する必要があるかもしれません。

今後の展開

- ・やはり、現在のやり方を継続して参加者を増やしていくこと。そのため、例えば収穫したイモを使って料理をするなどして交流できる機会を増やすと良いかと思います。

連携団体

- ・今のところ連携する団体はありません。ご近所の高齢者世帯にもご参加を呼びかけると地域全体の交流ができるかもしれません。

問い合わせ

		 or 
	090-9575-3832 (担当者氏名) 八谷	

植木寺子屋山東塾運営委員会

活動を始めるきっかけ/活動概要

地元山東小児童の生きる力を育み、地域の文化を学び感謝の気持ちを醸成し、世代間の交流と児童の健全な育成を目的としてスタートした。

重点的に取り組んだこと/成果

開塾式・そうめん流し・芋ほり・餅つきのイベントを開催した。学校や家庭ではなかなかできない体験や伝統行事を、地域とのつながりを大事にしながら実施した。

課題/解決に向けての取り組み

塾生児童の保護者への連絡のスピード化を図るため、一昨年度から LINE を利用し、双方向の連絡が取れるようにした。その結果、参加人数の把握や連絡がスムーズになった。

今後の展開

伝統行事を大事にしつつ、こども達が興味を持てるイベントを開催できればと模索している。

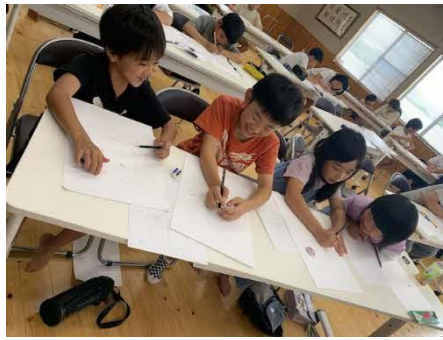
連携団体

山東校区自治協議会
熊本市立山東小学校
山東小 PTA
山東小おやこの会
山東校区女性の会

問い合わせ

		 or 
santo-com@wind.ocn.ne.jp	096-272-4368 坂本 明 田平 佳代	

開塾式 6/15



そうめん流し 8/4



芋ほり & クレーン車体験会 10/6



餅つき大会 12/14



白川小学校親児の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

本会は、子供たちの健全育成を目的として、自らイベントを計画・実施するだけでなくPTAや学校行事のバックアップや地域イベント等にも積極的に関わりながら、支援体制を構築してきた。コロナによる活動中止や自粛もなくなり、当初計画していた地域夏祭りの運営支援については、台風による天候悪化のため開催中止となり、実施できなかったが、夏には「ゴムボートレース&水てっぽう大会」、秋には「魚のつかみどり&プレイランド」の体験型イベントを学校や消防団、青少年健全育成協議会、自治協議会等の協力を得て主催できた。併せて学校内の空き地を活用した「じゃがいもの植え付け・収穫体験」の管理運営にも継続的に取り組んだ。

また地域の自治協議会連絡会の運営会議にも積極的に参加し、地域との連携を密にしながら、子供たちが安心して生活できるよう環境づくりに貢献してきた。



ジャガイモ収穫体験(6/9)



ゴムボートレース&水てっぽう大会(7/28)



魚のつかみどり&プレイランド(10/27)

重点的に取り組んだこと/成果

活動の円滑化と各会員の負担軽減を両立するため、役員によるWeb会議をイベント実施前に行い、具体的内容やスタッフ参加者等の確認はラインを利用して情報を共有。

「ゴムボートレース」では、学校側と事前協議して学校内プールを使用し、各児童が安心して参加できるように「参加児童のアームリング着用」「保護者同伴の義務付け」「プール水中でのスタッフによる補助」「プールの減水」「テント設置による熱中症対策」等を実施。またチームによるリレー対抗戦として、子供同士の協力や競争意識を促した。

「魚のつかみどり&プレイランド」では、消防団や青少年健全育成協議会等に協力を要請。また体験資材（ヤマメ）等にかかるため、参加者からも負担金を徴収するとともに自主制作した簡易プールを活用。加えて「魚のつかみどり」では、体験参加者の事故等の発生リスクをさけるため、学年ごとに参加者を整理し人数を制限。また「プレイランド」では、各体験コーナーにスタッフを配置するなどして、安全面に気を配りながら、運営を行った。

子供たちは、「ジャガイモ収穫」では、品種によりジャガイモの形が違うことを学んだり、ボートレースでは、お互いが協力して操作を楽しむ姿がみられた。また「魚のつかみどり」という日常ではできないことを体験し、保護者や関係者からも非常に好評に受け入れられた。

運営面では、数々のイベントを継続的に主催することで、学校や保護者、地域からの信頼が増し、本会が実施するイベントが地域活動としても、認知されてきている。

課題/解決に向けての取り組み

コロナの影響により、保護者間の交流が希薄化し、地域においてもイベント等の運営を支える担い手が少なくなり、活動体制が弱体化している。本会の活動継続は、学校だけでなく地域からも強い期待を背負っているため、今後も保護者、学校や地域と情報共有しながら、学校や地域活動をバックアップできる体制づくりを強化していく。

今後の展開

会員間や学校や地域とも情報共有や発信を行いながら、ノウハウの継承や会員を拡充し、様々な場面での支援体制を強化継続していきたい。

連携団体

白川小PTA、白川小学校、白川校区消防団、青少年健全育成協議会、白川校区自治協議会

		 or 
Pw3snsd@gmail.com	090-5483-0136 (西田伸介)	

NPO 法人 こころサポート熊本

～子どもと笑顔で過ごすためのプログラム～

活動を始めるきっかけ/活動概要

全国的にも家族規模が縮小し地域との関わりが減ってきている社会で、育児に対する孤立傾向があり、保育や学校の現場でも対応に苦慮しているという話が現場から聞かれます。そして、それに親の関わりの問題が大きく関係しているといわれているが、親もどのように接したらいいのか対応がわからず不安を抱いているという現状があります。その不安の中子育てしているお母さんへ子どもとの正しい関わり方を伝えるとともに、親同士の繋がりを作る場も同時に目指して親子の心の支援をして笑顔がふえるよう活動しています。

重点的に取り組んだこと/成果

不登校・引きこもり、心の病、発達の問題、DVの問題、貧困などどれもその中で生きる人にとっては厳しい環境や状況でもあり切実な問題です。

今はそうではないとしても「どうしたら幸せに生きていけるのか?」「どうしたら大切な人が笑顔になるのか?」「これを常に考え、良い支援を実現していくことを目指します。お互いに学び成長する集い。人の拠り所となることを心から願い活動することは、この先必要とされていることでもあると考えています。

「子どもと笑顔で過ごすためのプログラム」では、子どもに接するときの間違った常識に気づき、効果的な子どもの気持ちの受け止め方を学ぶことで子育ての不安が軽減されます。お母さんの心が安定してくると、子ども達の自己肯定感も高まり心からの笑顔が増えてきます。

(成果)

お母さん自身の自己肯定感が少しずつ上がって来て感情的になる事が減り 家族の笑顔が増えた。

課題/解決に向けての取り組み

プログラムは、月1～2回の8か月間。この全部の回に参加が難しい方が多かったので、参加しやすいような会場を追加して実施することとした。今後は、単発のプログラムを望む声も多く聞かれたので、どの回でも参加できるように告知していきたい。

令和7年6月から 子どもと笑顔で過ごすためのプログラム講座全12回コースで実施します。

今後の展開

子育て中の多くの方に「子どもと笑顔で過ごすためのプログラム」に参加して頂き、心のことの正しい知識と問題行動の効果的な関わり方を伝えていきたい。

お母さんの笑顔は子どもの幸せ。一人でも多くのお母さんが幸せで心からの笑顔であふれますように。この願いを胸に、今後も一つの地域にとどまらず、親同士の繋がりを作る場としても活動を広げていくことを目指します。

連携団体

(株)メンタルサポート研究所
熊本市教育委員会(後援)



問い合わせ

		 or 
	090-7397-6906 (担当者氏名) 野口よち子	

Office38 WindBell

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域の子どもたちの居場所づくりとしての学習支援、および、地域の方々から、制服や学用品のリユースができるかと助かる・・・などの要望を受け、W-B プロジェクトを開始。

月平均 7 回の（週 2 日）制服リユース、および学習支援会を行っている。制服リユースに関しては、いらなくなった制服を欲しいというアナウンスは口コミやインスタグラム、LINE アカウントで行っている。その結果、たくさんの支援の輪が広がり、学用品や制服が集まった。ほつれていたり、汚れていたものはスタッフで不定期に集まり、きれいに整え、なるべくきれいな状態でお届けできるよう、努力している。諸事情があり、急遽転校してきたので制服がない、学用品も足りない、というご家庭などの急遽の SOS にも対応することもできた。

また、学習支援に関しては、子どもたちの要望が強く、今期は学習支援員の調整を行い、週 2 回程度の学習支援の場を確保し、昨年の倍の日数の開催となった。支援員に関しては、高校生や子ども関係の仕事に携わる専門家をはじめ、地域の有志に依頼し支援を行った。屋外の活動で、寒かったり暑かったりするのだが、子どもたちは意欲的に学習に取り組み、それぞれの課題に取り組むことができた。

重点的に取り組んだこと/成果

子どもたちからの「もっと開催日を増やしてほしい」という要望に応えるべく、かなりの調整を行い、今年度は昨年からの倍の開催日を設けることができた。

さらには、地域の方々に理解し、みんなで見守っていただきたい思いで、道行く人に積極的に声を掛け、活動の説明を行った。その成果として、制服リユース、学習支援を行っていることがずいぶん地域に知られ、地域の皆様から「子どもたちのおやつにして」と品物を持参いただいたり、寄付をいただくなど、それぞれ気にかけていただき、支援をしていただくようになった。

このように、開催回数が増えたことで、地域のたくさんの方の目に触れることになり、子どもたちを地域のたくさんの温かい目で見守っていただくことに繋がったと感じている。

課題/解決に向けての取り組み

マンパワーについて、高校生や学生などの支援を継続して得られるよう、積極的に学校等へ働きかけを行う。

今後の展開

この活動を今後も維持できるよう、積極的に活動をアピールしていきたい。

連携団体

NP0 法人ポピンズくまもと

問い合わせ

		 or 
	070-5416-8157 (担当者氏名：代表 森高)	



子育て支援サークル・くまもと

活動を始めるきっかけ/活動概要

「ペアレント・トレーニング」と「子どものタイプ別接し方講座」を使って、子どもとの好ましい関わり方を学ぶ講座を開催し、日常の子育ての困り事に活用することで不安が減り楽しく子育てができるように支援すると共に仲間づくりや、安心してお話ができる居場所作りを目的に活動を始めました。



重点的に取り組んだこと/成果

○子育て中の方、子どもに関わる方が集まり大江公民館と中央公民館で講座を毎月2回
全24回実施

○講座内容は、ペアレント・トレーニング7回、子どものタイプ別講座4回、茶話会1回

○子どもさんの事、家庭の事、ご自身の事個別相談実施

○成果（参加者の声）

- ・子どもの癪癢が続く時間が減った
- ・叱ってしまっても、出来ている事は言葉にして「出来たね！」と褒めたり、認めたりできるようになった
- ・子どもが自分の意見を言ってくれるようになった
- ・行動そのものにイライラしていたのが、許せる範囲を見つける事ができるようになり、一歩引いてみれるようになった
- ・言われなくても子どもが自分でしてくれることが増えた
- ・子どもが少し何にでもやる気が出て来たと思う
- ・子どもへの対応を気を付けるようになった。
楽な考え、ストライクゾーンが広がったように思う。思いつめずに色々試せる余裕ができた
- ・子どもは出来たり出来なかったり一進一退ですが、参加前に比べると自分の事は自分でやろうとする気持ちが子どもに出て来たようです
- ・親の話を聞いてくれるようになった。甘えてくるようになった
- ・感情的に子どもに接することが少なくなった。負の感情も認められるようになった
- ・それぞれタイプに応じて接し方を変えて接するようになったら子どもだけではなく、職場の人との人間関係が良くなった

○講座を聞くだけではなく、講座内で参加者どうしでロールプレイをし、家に帰って実践された事で、子どもや参加者ご自身が変化していく体験をしていただけたと思います。

○個別相談を行った事で、子どもや家庭の事だけではなく、参加者ご自身が悩んでいる事に寄り添う事ができました。

○今回は講座を始めて3年目ですが（第1期生）受講生の方は「子育てサポートセミナー」全12

回の講座修了後も 2～3 か月に 1 回 受講生から依頼があり 10 名程度集まり講座をしています。現在も講座を行っています。(第 3 期生) の赤ちゃんコースの方からも講座依頼があり勉強会を実施しました。ご希望があれば引き続き交流を大事にしていきたいと思います。

○講座卒業生からご相談や、困ってらっしゃる方のご紹介、新規の講座に再受講を希望されて学んでらっしゃる方もいらっしゃいます。



課題/解決に向けての取り組み

子ども連れで参加できる環境作りを考えていきたい。

今後の展開

令和 7 年 6 月 13 日(金) 第 4 期生

子育てサポートセミナー (「ペアレント・トレーニングと子どものタイプ別接し方講座」)

今回も全 12 回コースで実施します。子どもとの好ましい関わり方を学ぶと共に仲間づくりや、安心してお話する居場所作りに取り組んでいきます。

連携団体

(株)メンタルサポート研究所グループ

熊本市教育委員会 (後援)

問い合わせ

		 or 
perseus.992424@gmail.com	090-9490-2188 (担当者 藤吉)	



『Team 延壽院』～地域コミュニティサポート寺子屋～

活動を始めるきっかけ/活動概要

結婚をし子育てを経験していく中で、同じ子育て世代が、共働きや離婚、仕事によるストレス等で子育てに不安を持ち、また核家族化が増え、中々周りに頼ることが難しい家庭を多く見てきました。そこで、困っている家庭に寄り添い、地域で子育てのフォローが出来、健康かつ安全に子供を見守る、または健全育成の手助けが出来る事が、子供、親、地域にとって、よりよい社会になる、まずは近所に寄り添える場や人がいることを伝えられることを目的とし、活動を始めのきっかけになり現在活動を行っております。子育てに関して、子供の居場所作りや、親子のふれあい、おじいちゃんおばあちゃんと孫世代との交流、家庭の相談や児童預かり・送迎、傾聴活動をふまえた様々なイベントを行っております。

重点的に取り組んだこと/成果

ひとり親家庭や、子育てに困難な親子に寄り添い、大切な事、親としてもっと伝えたいことをコチラの企画の中心におきイベントを行った。また、すべての企画に防災～災害に備える～というキーワードを載せ、普段とは違う非日常体験を行うことで、「大変な時ってワガママな心になりやすいんだ、その心のせいで自分自身を傷つけたり相手を傷つけたり。変に我慢してしまうと自分も相手もキツイ。だから今、笑って大事なことを学んでいこう」を各講師も皆に伝え、相手を思いやる事の大切さ、大変さをみんなで楽しく学んでもらいました。

課題/解決に向けての取り組み

各イベントで参加費を大きく徴収せずに行っているが、もっと多くの人の目に情報を伝えられるよう、案内告知を増やすこと。また寄り添う企画を多く開催出来るよう、会場への自己負担を減らし、衛生面等に関してもより必要備品を備え、良い空間を用意していきたい。

今後の展開

地域の中にある団体として、毎年恒例のイベントにし、子ども食堂や各ボランティア、食生活改善推進員や防災士の方々、消防団の方々、自治会、校区の子供会とも連携を取れるようにする。それによってこれからもあり続ける、そしてこの校区、地域は心も体も豊かな処となることを目指しております。

連携団体

花園まちづくりセンター、NPO 法人くまもと防災士会、人吉コミュニティ事務局にじのおと、火の国サランダーズ、熊本市食生活改善推進員、熊本ファミリーサポート、健軍リバイタライズ、本妙寺こども園、川尻お寺 de フェスタ実行委員会、花園子供会、上熊本周辺にぎわいづくり実行委員会



or



rrbdr755@ybb.ne.jp

090-2967-9375

(担当者氏名) ハマダ ギコウ

『Team 延壽院』

enjuinkumamoto



保育者の子育て塾

活動を始めるきっかけ/活動概要

はじめたのは、コロナ禍真ただ中、子育てセミナーを開催していて、そこで出会う母親たちが、《居場所》を求めていることを、ひしひしと感じたことがきっかけである。

《熊本の子育て応援隊》として、もと保育者としてのスキルを活かし、子どもが心から楽しめる居場所として、就園前の子供向け⇒《0歳からはじまるリズム遊びとわらべうた伝承》3歳以上向け⇒《ガキ大将育て塾》地域縁側事業⇒《子育てプチセミナー》を3年間、毎月続けている。これまでの参加者は、延べ3000名近くである。



重点的に取り組んだこと/成果

《子育て塾》に集まった子どもたちが、心から『楽しい』と感じ、『また行きたい!』と親たちを引き連れてくるような《意欲/やる気/挑戦》を育む活動を大切にしている。

成果としては、毎回《子どもたちの弾む笑顔》があること。2024年度からは、《リズム遊び》を中心に活動し、子どもの頃にしか磨けない3つの輝き玉《粘り玉》《気づき玉》《親切玉》を磨きながら、リズム遊びや大集団遊びを心から楽しむ姿がある。



課題/解決に向けての取り組み

興味を持つ親は多く、『ずっと気になっていたがやっと参加できた』と参加をしてくれるが、肝心の子どもが、リズム遊びや集団遊びに入れずに、『うちの子には合わない』『うちの子は集団に入れない』と悩みを打ち明けられることも多い。また、1回限りで参加しなくなる親子もいて、遊びに参加できないお子さんに対してのフォローが課題である。

解決策としては、活動後1時間は《子育て相談》の時間を設けている。年齢別の発達のだすじや、心の育まれ方を伝えながら、その日にあまり参加できなかった親子には、できるだけ話す機会を設けている。

また、新年度になるたびに、復職や入園時期を迎え、参加者が減少するので、認知を拡げていくことも課題である。解決策としては、熊本市の公式 LINE での発信のお願いを忘れることなくこまめに更新していきたい。

今後の展開

《子育て塾》ではありながら、《親育て塾》であることを、しっかりと浸透させていきたい。目の前の子どもの姿は、《親の意識/在り方》で変わること…【子どもは親の鏡】【親の背中を見て子は育つ】…。子育てはミラーニューロン《親の真似しかしてない》ということ、うまく伝えていくには、子育てプチセミナーとの連携が必要かなと感じている。《子どもは親のマネしかしていない》特に親の心の中身や表情、口癖をミラーニューロンしているからこそ、本当は、親の心が整うことが大切なのだ。

【保育者の子育て塾】は、親子で遊びながら、《親育て》をしていく。まず簡単なことが、《親が心から一緒に楽しむ》ということ…。大人が心から楽しめば、子どもが変わるという体感を引き出していけるように毎回の準備をととのえていきたい。

連携団体

特になし。

《新聞紙アート》で有名な東耕平先生と、毎年1回コラボをしている。



団体名 熊本食育の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

食は命、体は食べたものでできている。健康に生きるためにはとても重要な言葉です。健康で生きる、そのためには正しい情報を知って、栄養バランスの取れた食生活を送ることです。そこで食の現状と問題点、栄養バランスの大切さや正しい食生活の提案をするために活動を始めました。

特に乳幼児期の食生活は脳の発達、心身の健康、さらに大人になった時の生活習慣病にも影響を与えるので重要なことです。子どもの時から、安心、安全、栄養バランスの取れた食生活を送ることのできる提案をはなまるクッキングを通してお伝えしています。

会員は食育指導士の資格を持ち活動しています。

重点的に取り組んだこと/成果

① はなまるクッキング

毎回、クッキングの後はメニューに合わせた内容で食育コーナーを実施。

たんぱく質の重要性、不足しがちなビタミン、ミネラルのこと、食品添加物のこと、トランス脂肪酸との付き合い方など 10～15 分間で資料映像などを使い実施しています。

② ミニミニクッキングでは、添加物ゼロの焼き肉のたれ、シフォンケーキ、おやつなどを作っています。

メニューを 1 品にしぼり、短時間（10 時から 12 時）ででき、子育て世代が参加しやすいようにしています。

③ 味噌作り（親子味噌作りも開催）

味噌作りを通して「ご飯とみそ汁」の良さをお話している。

④ 夏休みキッズクッキング（対象年齢は年中さんから、小学生まで）

- 子どもたちだけでごはんのみそ汁、目玉焼きを作った。

子どもたちの調理の時間、保護者は別室で食育の話を聞いてもらう。

- 調理、食事後は親子一緒に食育コーナーを実施し、食品添加物（合成着色料、香料、クエン酸など）と果糖ぶどう糖液糖だけできるジュース作りの実験をした。

市販されているジュースは、添加物がたくさん使われていることを知ってもらう。

また、ジュースの糖分が砂糖だけではなく、果糖ぶどう糖液糖などが多く使用され、これらの糖分の摂り過ぎが体調を悪くする原因にもなることなど、紙芝居を使い子どもたちと保護者に知ってもらった。

⑤ 能登半島災害支援講演会を実施し、義援金を届けることができた。

成果 キッズクッキングでは子供さんが自宅でも、積極的に料理に取り組んだり、お手伝いをしているとの報告がある。

参加者のアンケートからは、乳幼児期からの食生活の大切さを知り、食生活の改善がみられる。

能登半島災害支援講演会では、災害の備蓄品は特別なものを備蓄するのではなく、日頃から食べている食品や米と味噌などを備蓄してローリングストックをしておくことが大切だと知ることができた。

被災地の現状を知り、自分たちにできることを考え義援金を届けることができた。

課題／解決に向けての取り組み

- ① 会場は田迎西地域コミュニティセンターで実施しているが、コミュニティセンターの利用者も多く使用できる日が限られているので、他の会場での開催も視野に入れて、食育活動をさらに広げていく。
- ② 若い方のお魚離れが進んでいるので、今後、魚料理をメニューにとり入れていく必要性を感じた。
- ③ キッズクッキングは現在、年1回の開催だが、参加者からの要望もあり、回数を増やす検討をしている。

今後の展開

子育て中の方に役立つ食育クッキングを継続し、今後は食育出前講座なども実施したいと考えている。

「安心、安全、そして簡単で美味しく、栄養たっぷり」をテーマに食の大切さと正しい食の情報をお伝えしていく。

連携団体

NP0 法人 日本食育協会

NP0 法人 福島県食育協会

NP0 法人 山口県食育協会

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Kyky19562015hhyik@yahoo.co.jp	09057421520 横山久美子（担当者氏名）	

はなまるクッキング



夏休みキッズクッキング



味噌作り教室



能登半島災害支援講演会



活動を始めるきっかけ/活動概要

近年、子どもを取り巻く環境は複雑化しており、保護者だけでは健全な育成に限界があります。そのため、社会全体で子育てを支える必要があると考え、子育て支援の活動を続けてきました。

また、働き方や暮らし方の変化が進む中で、どんな状況でも「人とのつながり」が何より大切だと実感しています。子育て世代も、社会の変化や教育改革に直面し、不安を抱える保護者が少なくありません。

そこで本講座では、専門講師による講義で子育ての課題や対応策について学び、ワークショップでは参加者同士が交流し、悩みの共有や考え方の転換を図ります。保護者が少しでも心の負担を軽くし、前向きに子育てができるよう、意識の変化を促すことを目的としています。

さらに、昨年度好評だった親子での野外活動や制作などを取り入れ、スキнシップの機会も提供します。また、これまで参加された方にはスキルアップの機会を設け、家庭教育の充実も図ります。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍を経て、人とのつながりや子育てを取り巻く環境は大きく様変わりしま



した。こうした中、国の「こどもまんなか社会」の実現に向けた方針を踏まえ、私たちは子どもの発達と親子関係に焦点をあてた支援活動に取り組んでまいりました。特に注力したのは、子どもの発達プロセスにおける行動や感情について教育の専門家から学ぶ機会を設け、子育て中の保護者とともに「感情のコントロール方法」を知り、分かち合うことでした。全6回の講座では、専門的な知識の習得だけでなく、保護者同士が悩みや不安を共有し、前向きな親子関係のきっかけを築く内容を心がけま

した。また、「親も子も共に成長する機会」をテーマに、野外活動や親子参加型のプログラムも取り入れました。自然の中で過ごす時間が親子の絆を深め、子どもにとっても新たな経験となりました。託児には高校生のボランティアにも協力をいただき、若い世代に父親の子育てへの関わり方や学ぶ姿勢を伝える機会にもなりました。世代を超えて支え合う関係づくりを目指し、地域の力を感じる取り組みとなりました。特に印象的だったのは、ひきこもりがちな子どもが数年ぶりに親以外の大人と会話を交わす姿を野外活動の場で見られたことです。保護者から「参加して本当によかった」という感想をいただき、子どもの成育に明るい希望を感じていただけたことが、今後の活動への大きな励みとなりました。今後も、専門家との連携を深めながら、家庭の中で親が一体となって子育てに関われる環境づくりに力を注いでまいります。



課題/解決に向けての取り組み

今回の講座では、運営スタッフの不足が課題となる中、ボランティアの協力により無事に開催することができ、大変ありがたく感じている。一方で、今後のためにはスタッフの確保や運営スキルの向上が必要であると感じた。

また、広報が不十分だったことにより参加者数が少なかった点も課題であり、今後は広報活動の強化を検討していきたい。託児に関しては申込みが多く、一部を外部に委託したが、当日の無断キャンセルも見られた。これに対し、今後は事前の参加費徴収やキャンセルポリシーの明確化などの対応が必要である。本講座を通じて参加者同士のつながりが生まれ、相談窓口の情報も共有することができた。こうした関係性の構築は講座の意義を高めるものであり、今後も継続的に学びや交流の場を提供していくことが重要であると感じている。

今後の展開（予定）

今後は、「子どもと親が共に学び合う《共育》」をテーマに、より実践的で参加しやすい子育て支援の講座を企画・運営していきたいと考えている。野外活動や製作活動などの体験型プログラムを取り入れることで、親子でのふれあいや学びを深め、家庭でも楽しく活かせるような内容を提供する。また、参加者の多様な状況に対応するために、リアル（会場参加）とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式の導入を進めていく。外出が難しい方には在宅でのオンライン参加の選択肢を、また直接講師からのアドバイスを希望する方には会場での対面参加を用意することで、誰もが無理なく参加できる環境を整備する。これらの取り組みを通じて、保護者が子育てにゆとりを持ち、楽しめるようになること、そして親自身が自己肯定感を高められるような支援を目指す。子育てに悩みや不安を抱える方々が少しでも安心し、笑顔になれるような講座づくりに今後も継続して取り組んでいく。

開催の内容や講師の紹介

令和6年度 熊本市子どもの未来応援基金

親子共育

親子のスキルアップ
セミナー&親子体験型

子どもの発達プロセスにおける行動や感情を教育の専門家から座学で学び、他の親さんとうながり、分かち合います。
屋外では子どもとともに楽しみながら経験を通して、意欲や地域関心、共感性をアップします。「良質な親子関係」のきっかけとなるようなプログラムです。
子育てを楽にできるヒントをみつけあて親と子ともに心を育ててみませんか？
笑顔で子育て絶賛応援中！！

開催日	座学セミナー 託児あり	会場
7/14 (日)	「(仮)人と人のつながり(会い)子育てでもっと楽しむ」 録画 moyai の子育て支援活動-子育て座談会みんなで語り合おう！ 一般社団法人子育てネットワーク録画 moyai 代表オノ ユリ氏	あいぽーと
8/10 (土)	「(仮)子どもの心を育む手遊び・大人も楽しめるレクレーション術」 教育支援プロジェクトマスターズ会員 県民カレッジ講師 岡田 富子氏	パレア
9/1 (日)	「(仮)ネット達人/ババが伝授！幼児期から思春期のタブレット&スマホのドリセツ」 株式会社 Action Lab 代表 原田 大氏	あいぽーと
11/3 (日)	「子どもの心を育て育てる絵本との出会い〜絵本は心の栄養」 出張絵本屋モフ BOOKs代表 絵本専門士 吉田 美樹氏	パレア
10/27 (日)	親子体験型学習 「親子で焚き火体験・ペットボトルビザ作り」 NPO 豊田共育ネットワーク理事長 新道 欣也氏 社会教育士、公益社団法人日本キャンプ協会認定 小原 博二氏	花園公民館
11/30 (土)	「親子で江津湖の野鳥観察」 熊本市野鳥教育研究会会長、日本野鳥の会 熊本県支部長 田中 忠氏	熊本市 動植物園

子育て応援

親子10組募集

2024年10月27日(日)
am11:00~13:30

子どもまんなか「親子アウトドアクッキング」

場所：龍田プレイパーク 熊本市北区龍田7丁目8-1
講師：新道 欣也氏 NPO 法人龍田共育ネットワーク理事長
小原 博二氏 社会教育士、公益社団法人日本キャンプ協会認定
参加費：一人500円(薪・お昼ご飯材料・保険代)

親子のスキルアップ
セミナー&親子体験型
親子と共に育つ
ワークショップ

2024年11月30日(土)
am10:00~12:30

親子でともに学ぶ野鳥の生態と江津湖で野鳥観察

場所：動植物園西口 緑の相談所2階 集合
講師：田中 忠氏 熊本市野鳥教育研究会会長、
日本野鳥の会 熊本県支部長
参加費：一人100円(保険代)

問い合わせ

		 or 
mastarskuma@gmail.com	民長博美 050-3553-3683	

ユニバーサル親子柔道教室

活動を始めるきっかけ/活動概要

柔道の創設者、嘉納治五郎師範の教えに「精力善用」「自他共栄」があります。「精力善用」：心と身体を持つすべての力をつかって、柔道だけでなく、社会のため、みんなのために使いましょう。「自他共栄」：思いやりの心、感謝の心、信頼し合う心、助け合う心をもって、自分一人だけでなく、みんなと共に栄える世の中をつくりましょう。この精神は、柔道においても、日常生活においても、ユニバーサルにつながると、私は捉えました。運動の得意・不得意に関わらず、障がい、年齢、性別に関係なく、誰でも柔道の体験ができ、親子で楽しく体を動かせる場所を作りたいとの思いから、【ユニバーサル親子柔道教室】を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

重点的に取り組んだこと

- ① 「ほめる」こと、子どもたちの発達段階に応じた指導
- ② 子どもたちに役割を持ってもらうこと
- ③ 参加者の交流

成果

- ① 心理カウンセラーの先生のアドバイスを取り入れ、全体の合理的配慮に繋がりました。個々の子どもたちの発達段階に合わせて、指導者の先生方は柔軟に対応してくださいました。
「よくできたね」「すごいね」と、「ほめる」声掛けをしました。このことは、親子同士、普段はなかなか気づけない「お互いのよいところ」への気づきや、「今できていること」に子どもたち自身が気づき認めることに繋がったのではないかと思います。
- ② 毎回の出欠確認の受付の際に、子どもたちに号令係を決めるクジを引いてもらいました。号令係になった子どもさんは、元気に号令をかけてくれました。継続参加の子どもさんが、プログラムの中のお手本を引き受けてくれました。子どもたちは、それぞれの役割をしっかりと果たしてくれました。
- ③ 親子同士だけでなく参加者同士の交流も含めたプログラムを実施することができました。本年度は熊本市内だけでなく、ホームステイ中の海外の学生や、県外からの本教室に関心を持たれた方の参加がありました。

課題/解決に向けての取り組み

課題

- ① 初心者の方も継続参加の方も楽しめるプログラムの工夫
- ② 本教室終了後に柔道を始めたいと思う子どもたちを受け入れてもらえる少年クラブチームとの連携
- ③ 子育てに関する悩みを語れる場所づくり

解決に向けての取り組み

- ① 安全な転び方のプログラムを基礎にして、柔道の習熟度や子どもたちの成長の段階を考慮しました。初心者の親子には、柔軟に工夫しながら指導者が個に指導をされました。
- ② 柔友会（連携団体）がご協力くださいました。

③ 心理カウンセラーの先生がご協力くださいました。

号令の様子



お手本の様子



先生と寝技の練習



親子で受け身の練習



参加者同士で帯取り（しっぽとり）ゲーム



集合写真



今後の展開

運動の得意・不得意に関わらず、障がい、年齢、性別に関係なく、一人ひとりに優しく、楽しいユニバーサルな教室を目指しています。また、親子で楽しく体を動かしながらスキンシップが図れる場、子育て世代の交流の場としても活用いただける環境を作ってまいります。

連携団体

- ・ 熊武会（フリーサークル）
- ・ 熊本学習支援センター
- ・ 熊本柔友会
- ・ ユニバーサル親子柔道教室は、活動の主旨に賛同くださった柔道指導者、心理カウンセラーの先生方お一人おひとりのご協力を頂いております。

問い合わせ

		 or 
ma.ma.ma.judo@gmail.com		
おりお れな（担当者氏名）		

NP0 法人子育て支援ワーカーズペペペらん

活動を始めるきっかけ/活動概要

子ども達を取り巻く環境が電子メディアなどによって変化するなか、乳幼児からの言葉環境が悪くなっています。子どもたちの健全な育成は、乳幼児期からの環境で左右されます。

子育てに関わる大人が乳幼児期からの言葉環境を良いものとし、子どもの聞く力を育み、社会性、協調性のある子どもの育成をサポートすることを目的とします。

重点的に取り組んだこと/成果

幼い子時から子どもとの触れ合いを大切にしてほしいとの思いから、絵本やわらべうたを通した活動を続けています。育児休暇明けには仕事場へ復帰するお母さまが多いです。

育児の大変な中でお母さんの笑顔を見る事ができる時間でもありました。

活動を広げていくためには、情宣が必要不可欠な時代となってきました。SNS やホームページを活用して、たくさんの親子が集う場所になるように発信しました。若いお母さん方はインスタグラムの効果がありました。





課題/解決に向けての取り組み

乳幼児期の大切な時期を、絵本やわらべうたと出会ってもらいたいと思います。育休を利用して参加してもらえるように、SNS の情宣をこれからも続けていくことが大事だと思います。

今後の展開

今後も活動の継続に努めていくことが大事だと考えます。

育児は大変です。少しでもお母さんが楽しんで、子育てできるお手伝いをしていきたいと思っています。

連携団体

問い合わせ

		 or 
mail@pepepeperan.com	椎葉 信子 (担当者氏名)	

NP0 法人せいしとらんし熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

NP0 法人せいしとらんし熊本は、2019 年の設立以前から、自他の命の大切さや家族の絆を育むことを目的に、性教育啓発活動を行ってきた。活動の中で特に多く寄せられたのが、障がいのある子どもを育てる保護者や支援者からの月経に関する悩みで「血を怖がる子どもに、どう説明したらいいかわからない」「ナプキンの交換や後始末がうまくできない」「父子家庭で娘に月経のことを伝えるのが難しい」こうした声に応える形で、「誰でも見て理解しやすく」「大人も説明しやすい」視覚的教材（ポスターと冊子）の制作を決意。以下の活動を実施した。

《届けよう～しるみる月経ポスター＆お父さんお母さんのための手のひら冊子～》

- ・視覚的にわかりやすい「月経時のナプキンの取り替え方ポスター」を作成。
- ・大人向けの解説冊子も同時に作成し、保護者や支援者の不安を軽減。
- ・熊本市内を中心に、支援学校や発達支援事業所などで配布。
- ・認定講師ネットワークを通じて、全国的に広報・活用を展開。
- ・保護者、支援者の性教育に関する意識調査を実施。

重点的に取り組んだこと/成果

- 熊本市・熊本県教育委員会の協力のもと、県内全ての小学校、中学校、特別支援学校に1セットずつ配布。
- SNS への告知
- 放課後等デイサービス等の福祉施設にも配布し、地域内の情報共有を促進
- 保護者や相談支援専門員を巻き込んだポスターの構成・校正を実施し、視覚的に理解しやすいデザインに
- 教育現場や家庭での初経への理解・支援体制の強化

※作成した「お父さん、お母さんのための手のひら月経冊子(A5 全 4 ページ)表紙」「しるみる月経ポスター (B5 サイズ)」

(A5 サイズ)



(B4 サイズ)

概ね 4000 枚（ポスター 2000 枚、冊子 2000 枚）配布完了

※下、「申し込みチラシ」「使用方法」「アンケートのお願い」(A4)



課題/解決に向けての取り組み

- アンケート実施の目的・対象選定に課題があり、今後の改善点として認識
- 今後は、アンケートの実施方法や設問内容をより明確にし、効果的なフィードバック手段を検討

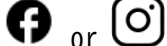
今後の展開

- 教育・福祉施設とのつながりを活かし、今後も月経教育や性に関する正しい知識の普及活動を継続予定
- 特別支援教育の視点を取り入れた教材開発や講座開催など、支援ニーズに応じた活動の拡充を検討中

連携団体

- 熊本市教育委員会
- 熊本県教育委員会
- 熊本市障害福祉課
- 熊本市北区の相談支援専門員

問い合わせ

		
info@seirannkumamoto.com	096-323-6070 担当 中村和可子	https://www.facebook.com/seishiranshi

一般社団法人子育てネットワーク縁側 moyai

活動を始めるきっかけ/活動概要

「ママ達をつなげることで、ママ達を笑顔に、そして子育てを苦しいものではなく楽しんでもらえるように」という想いのもと、実際に集まって行っているサークル活動以外にも活動を広げています。『みんなですれば つらさ半減！楽しさ無限！』をモットーに、「縁側 moyai の仲間がいれば大丈夫」そう思えるような場を作っていきたいと思っています。

重点的に取り組んだこと/成果

●おいでよ moyai フェスタ 2024

2 日間にわたり、延べ 337 名のご家族に来場いただきました。「縁側 moyai」という子育てネットワークの活動にまだ参加したことのない子育て世帯を主なターゲットとして告知・集客を行いました。特に産前産後に孤立しがちな子育て世帯へ、マッサージ・骨盤矯正・子育て相談・子供服の販売など各日約 20 ブースが並び、様々な「つながる場」の提供ができました。



見守りコーナー（子どもをスタッフへ預けることができる場）があることで、1 人で買い物やマッサージを楽しむ参加者の姿もありました。来場者からは「なかなか一歩踏み出すきっかけがなく、家に母子でこもりきりだったが今回勇気を出して参加して本当によかった」「夫がいなくても見守りがあるということで安心できる」といった声が聞かれ、開催の意義を強く感じました。また、パパや祖父母など、家族皆で参加する姿も多く見られ、縁側 moyai の活動の意義を老若男女問わず多くの方々へと届けることができました。運営に関わったスタッフはすべて縁側 moyai の子育て中のママたちで、イベント当日は地域や学生のボランティアも多数参加してくださいました。こうしたイベントに関わることで「助け合い＝共助」というつながりの輪が循環し、子育てはつらいものではない、ひとりで抱え込まずみんなでいっしょに子育てしようという縁側 moyai の活動理念が、より多くの子育て世帯へ波及していくことが見込まれます。

●おいでよ moyai マチナカ

通常東区尾ノ上の活動拠点でイベントを行うことが多いですが、公共交通機関等でもアクセスしやすい熊本市中央公民館で、子育て世帯にニーズの高い「おひるねアート」「手形足形アート」のイベントを開催しました。

初めて縁側 moyai の活動に参加したという方も多く、子育て世帯が支えあう場である縁側 moyai をより知ってもらう重要な機会にもなりました。

●おいでよ moyai オンライン

コロナ禍以降も、オンライン形式での学習会や講座に対する一定のニーズはあります。今

回は、熊本市東区にある添島歯科クリニック子ども歯ならびセンターの添島絵美先生に、乳幼児からのお口のケアやお口の健康、歯並びについてのお話をいただきました。

参加者からは、乳幼児期の仕上げ磨きの大切さや、離乳食の食べさせ方も知ることができてよかったという声や、乳幼児の歯の生える前から聞いておきたかったという感想もありました。オンライン配信した内容は講師の許可をいただきアーカイブ配信もできるようにし、オンタイムでの参加が難しい moyai 仲間にも好評でした。

課題/解決に向けての取り組み

当団体主催のイベントの参加については、原則は「顔の見える関係」を大切に、そうすることで参加者にも安心して参加してもらえるように、原則 moyai 仲間（＝会員）を対象としています。しかし、今回助成申請した事業については、熊本市内外に暮らす子育て世帯に縁側 moyai の存在を知ってもらい、人生の中でほんの一時でしかない子育て期間を苦しいものではなく、支え合うことでより楽しいものとするための繋がり場づくりとして捉え、参加対象を限定せず登録会員からの会費徴収もしていません。そうすることでより多くの子育て世帯に縁側 moyai の活動を周知することができ、孤立した子育てに悩む子育て世帯へ縁側 moyai の活動の意義を届けることができたと感じています。

今後の展開

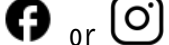
熊本市、熊本県と今後も連携していきながら、本サークルの認知度を高め、子育て世代や支援者のネットワークを拡大させ、幅広い子育て世帯をカバーできるようにしていきます。そうすることでイベント自体の参加者の満足度を向上させ、より充実した企画となるよう改良を重ね、それに伴って参加者の枠も広げていきたいです。

活動を通して団体として、地域づくりの一助にもなれる手ごたえを感じたので、今後も協力していきたいと考えています。

連携団体

熊本市、熊本県、東区まちづくりセンター、園田農園（合志市）、熊本市男女共同参画センター はあもにい、一般社団法人ゆずり葉、すぎかみ農場、熊本農業法人協会維新会、Haru Lab.（ハルラボ）、一般財団法人くまもと未来創造基金

問い合わせ

		
engawamoyai@gmail.com	070-2825-8428 (担当者氏名) 久保智絵美	https://www.instagram.com/engawa.moyai/ https://www.facebook.com/engawamoyai/

ひびPECSサークル

活動を始めるきっかけ/活動概要

自分の気持ちを伝えることが難しい子どもたちに『コミュニケーションは楽しい』と思えるような指導法や療育方法を実践していきます。手話などと違い、誰にでもわかりやすい絵カードなので、いろんな人とのコミュニケーションができるようになります。無発語のお子さんのトレーニングで発語が促される効果が高いと報告があります。

Pecs は ABA（応用行動分析）は行動心理学を使って子どもの問題行動に対しても適切に対応していくことができます。子どもたちは Pecs を使ったコミュニケーションを介して、さまざまなスキルを学ぶことができます。

近年では、絵カードを使った Pecs と ipad のアプリ Pecs talk もあり、携帯しやすく、絵カードの種類もたくさん使うことができます。トレーニングの中には、絵カードから ipad への移行や、コミュニケーションが育ってきたお子さんには Pecs を使わずにコミュニケーションする支援も行っています。

重点的に取り組んだこと/成果

家庭で少しずつ PECS によるコミュニケーションを進めている保護者からは、絵カードを使うことで子どもが援助を求めたり困りごとを伝えたりできるようになり、とても嬉しいという声が寄せられました。また、「手伝ってください」のカードを使用する場面では、少しずつ手伝うことで自立のトレーニングにもつながり、身辺自立が着実に進んでいる実感があるとの声もありました。さらに、ペアレントトレーニングを両親で受けたことで、母親と父親の間にあった意識の差がなくなり、父親も積極的に療育に関わるようになったという報告もありました。家庭や学校など、日常のさまざまな場面で PECS を導入することで、子どもたちが安心して過ごせる様子が見られるようになったという効果も確認されています。加えて、適切なコミュニケーションができなかったために問題行動が起きていた児童については、場面に合ったコミュニケーション方法を教えることで穏やかに過ごせるようになり、保護者が嬉しそうにその様子を話して下さったことが印象的でした。さらに、PECS フェスティバルでの実践発表では、幼児期からの取り組みにより、重度の自閉症児がコミュニケーションの意味を理解し、自発的にさまざまな人に働きかけられるようになったという報告があり、小さいころからの療育の大切



さとその成果が実感できる内容となっていました。

課題/解決に向けての取り組み

現在、私たちの取り組みについての情報発信が十分に行き届いておらず、本当に必要としている方々に届いていないという課題があります。また、勉強会を開催するための場所の確保も難しく、活動の継続に支障が出ています。保護者の方々からは、「子どものコミュニケーション支援のためにも、学校の先生方にも PECS を学んでほしい」との要望が寄せられており、支援の輪を広げていく必要性を感じています。今後は、PECS に興味を持っている方々に、このサークルの活動情報を的確に届けられるよう、広報の工夫と体制づくりを進めていきたいと考えています。

今後の展開

昨年登録した「熊本市結婚・子育て応援サイト」を活用し、今後はさらに積極的に情報発信を行っていきたいと考えています。インスタグラムなどの SNS も取り入れ、PECS を使ったコミュニケーションの実践やサークルでの活動の様子を、写真や動画でわかりやすく紹介していく予定です。また、発達障害のある子どもの子育てに役立つちょっとしたコツや日々の工夫、保護者の体験談なども発信し、同じような悩みを持つご家庭のヒントになればと考えています。情報を通してつながりが生まれ、安心して子育てができる環境づくりに貢献していきたいです。

連携団体

- ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン
- NPO 法人就労特化型支援団トリニティ
- 子ども発達支援モーツアルト

問い合わせ

		
pecs@malu2kucing.com	096-282-6035 (担当者氏名) 大塚志津子	 HIGO_PECs

団体名	メンタルサポート研究所グループ熊本シャムロック	プラダー・ウィリー症候群の子を持つ有志の会
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：16回 参加人数：66名 親の不安や孤独感に寄り添い話し合いながら家族間の悪循環を改善するとともに、案に楽しく子育てに取り組めるように臨床、公認心理士の指導のもと支援をしていくことを目的としている。	実施回数：7回 参加人数：80名（こども0名・大人80名） プラダー・ウィリー症候群により障がいをもった人達とその家族への総合的な支援を行うことを目的とする。
重点的に取り組んだこと/成果	専門家などの講座、研修会への参加、スーパーバイザーとの振り返り、他県開催中の活動者と情報交換しながら効果的な講座を目指す。	自団体での実施内容を、連携する事業所や専門家に伝え一部内容及び、スタッフ研修等の伝授にも力を入れている。大学の講義も依頼され未来の障がい者支援に関わる学生たちにも自社の取り組みを話す機会を頂いている。
今後の課題・展開	・開催地域の広域化 ・養育者または子どもに関する支援の連携 ・その際の情報交換等	希少難病であり発達障がいも有することから、医療機関に協力を仰ぎ、障がいを持つ全ての子どもたちが属する障がい者グループホームを含め、各相談支援事業所、各支援事業所や教育機関との連携を開始しているところである。
連携団体	NPO法人こころサポート、精神保健福祉支援センター、長崎県子供未来支援、各保育園・幼稚園等、メンタルサポートこころのミカタ	間部病院（小児科Dr 間部裕代先生）・熊本県難病支援センター・新潟PWS有志の会・発達支援センターLulu子ども療育研究室・佐賀県特別支援教育課担当部所・障がい者GHIにじいろの里・放課後デイサービスにじいろの木・他各所専門機関
団体名	親育ち支援の会 ポトフ	NPO法人コロボックル・プロジェクト
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：24回 参加人数：54名（こども4名・大人50名） 孤立する家庭へ専門の研修を受けた支援員が家庭を訪問し傾聴と協働の支援を行う。第三者が関わり不安が軽減することで虐待予防になる。親の気持ちに寄り添い、傾聴・協働することで親の自信を回復し、前向きに元気になる。地域の子育て経験者が関わることで地域へつながる役割を果たす。	実施回数：2回 参加人数：6名（こども3名・大人3名） 学識経験者や研究機関と共同して、自然環境の調査・研究や調査結果の公開、まちづくりの支援、子どもの自然体験活動の推進、障害児・者の福祉増進に関する事業を行い、調和のとれた自然環境の保全、地域の活性化に寄与する。
重点的に取り組んだこと/成果	地域の子育て支援団体や保健師と友好な関係を持ち情報交換をしながら利用者普及に努めている。	キャンプを通じた「生きもの共生教育」、創発的キャンプ、ポストコロナ時代のキャンプに取り組む。
今後の課題・展開	民児協の協力を得ながら、熊本市全体の保健師との関係性も築いていきたい。専門性の必要な対応は保健師が対応するが、ほんのちょっとした支えや寄り添いで軽減できる育児不安のある家庭に訪問したい。里親の会とも今後連携予定。	四季を通じた活動に取り組み、共生社会を目指す「生き物共生社会」を発展させる。また、創発的カリキュラム作りを進め、子どもが自ら育つ力と育ち合う力をいっそう育んでいきたい。
連携団体	南区民生委員児童委員協議会、南区子ども保健課、社会福祉法人グリーンコープ子育て支援ワーカーズぽっかぽか、子育て支援ワーカーズペペペらん	教育・心理・福祉関係機関、動物福祉団体、発達障がい保護者の会等

団体名	NP0法人寺子屋カフェくまもと
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：114回 参加人数：1,759名 シェアキッチンやコワーキングスペースを備えた居場所を常設し、支援対象者が趣味と実益を兼ねた作業を行ったり、夢の実現に向けて一歩踏み出すきっかけづくりの場を無償提供。足りない生活費を補えるような自立支援を目指している。
重点的に取り組んだこと/成果	母子ともに生きる力を養っていくために専門機関との連携を強め、専門機関と協働・調和することによって周りの理解を深め、より協力を得ることができるようになってきている。
今後の課題・展開	・短期ビジョン：「お泊り会」の実施で、反抗期の親子関係に少し距離感を保つ。 ・中期ビジョン：稼げるNP0法人を目指し、ひとり親家庭の収入源ともなれる立ち位置を目指す。 ・長期ビジョン：心の病を持つ親御さんのリワークシステムを構築して、子どもたちの健全育成を図る。
連携団体	反貧困ネットワーク熊本、グリーンコープLifeSupport生活再生相談室、熊本県弁護士会、熊本県社会福祉士会、熊本県行政書士会 他

長嶺みんなの食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・ 町内会への要望として、子ども食堂が上がる。
- ・ 食事に困っている子どもや孤食の高齢者へゆるーい会食の場は、有用である。
- ・ 参加者同士でも顔見知りが増えることは、地域の安心安全に繋がるプラス要素になる。

重点的に取り組んだこと/成果

- ・ 参加者を安定的に増やすため、毎月の回覧板や校区安心メール等で、毎月開催していることだれでも参加できることを呼び掛けた。
- ・ 調理スタッフの安定的確保は必要不可欠であり、継続して広く呼び掛けている。
- ・ 地元の支援は重要課題あり、農産物や不用品等の提供を呼び掛けた。少しずつ頂けるものが増えてきている。



課題/解決に向けての取り組み

- ・地域食堂の知名度を上げるため、子どもたちの描いたポスターを校区の店舗等に掲示した。
- ・多世代交流を活性化するため、中学校のさわやか交流事業で生徒に参加してもらった。



今後の展開

- ・安定した食事の提供を確保しつつ、食前のフリータイムを室内活動でお絵描きや学習や食事の手伝い、食後を屋外活動でスポーツやレクリエーションほか、季節感のある行事をやっていききたい。
- ・子ども・大人・高齢者ほか、多世代交流を賑やかに展開していきたい。

連携団体

青少年育成協議会、社会福祉協議会、長嶺プレイパーク、ながみね繁栄会、長嶺小学校 PTA、長嶺中学校 PTA

問い合わせ

 ncb8ru@gmail.com	 090-5930-9578	
https://sites.google.com/view/nagamineminnanosyokudou/ (現在 非公開)	(担当者氏名) 坂口信春	

黒髪地域食堂「いちょうの木」

活動を始めるきっかけ/活動概要

誰かと一緒に食事をする機会が多い子供ほどバランスの良い食事をしています。成長期の子供にとって、食事は発育・発達の力を握る重要な習慣です。こどもがひとりぼっちで食事をする「孤食」を減らして、会話を楽しみ、食事マナーや食事を待つ時間の過ごし方を自然に身につける場をつくりたい。また、子どもたちの笑顔や成長を見守る中で、支援者同士の交流につながり、地域の魅力が増し組織力も高まるのではと、地域で様々な分野で活動しているメンバーと立ち上げました。

重点的に取り組んだこと/成果

こどもたちが歩いて一人でも来られるようにと、会場を地域コミュニティセンターに決め、校区の小学生とその家族を対象にしました。

お母さんが仕事の間に一人で来たり、部活動の後に兄弟で来たりと、それぞれの家族の形で利用されているようです。

課題/解決に向けての取り組み

最初にご飯を食べに来るだけだったこどもたちもだんだんと仲良くなり、ご飯の後も遊んで帰るようになってきました。

地域の折り紙が得意な方や大学生ボランティアの協力を得て、午後からもみんなで遊べるようになってきています。

今後の展開

年々、参加者が減ってきている地域の行事と一緒に活動することで、お互いに顔見知りになり世代をこえた交流ができればいいなと思っています。

連携団体

ありません

問い合わせ

		 or 
ichonoki.kurokami@gmail.com	070-9042-0226 (担当者氏名 田上)	

4 月開催初日『こどもたちにおいしいカレーを』



5月『スタッフと一緒ににおにぎりづくり』



6 月『七夕かざりづくり』



7 月『ミニ夏祭り』



8 月『流しそうめん』



9月「セルフミニドッグ」



10 月「プチシューとチョコペンでジャック・オー・ランタンづくり」



12 月読み聞かせ～クリスマスの世界を～



ちいきしょくどう

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・日吉東校区は核家族化や共働き世帯の家族が増加している地域であるため、こどもたちの孤食や孤立防止の為に、食育の観点に配慮し、栄養バランスのとれた食事を提供している。
- ・食事前には学習などの様々な学びの支援や食育活動を行うことで、地域の老人会の皆さん方と共に楽しい多世代交流ができ、生活力の向上を図っている。
- ・地域食堂で提供する食事は校区内の病院にあるレストランの栄養士さん・コックさん手作りの料理で、地域向上の為に貢献したいとの申し出をいただき助かっている。また、食材は校区内の住民農家さんから米・野菜の寄附もいただき病院へ届けている。

重点的に取り組んだこと/成果

- ・毎回、学校からの案内があると申し込みがすぐ予定数に達するなど、親御さん方から好評を得ている。
- ・小学校や校区内の総合病院、農家など地域の団体や住民との連携が促進され、協力体制が強化された。
- ・伝承文化活動により、こども達は伝承文化の学びの機会を得るとともに、高齢者は伝える喜びや生きがいを感じることが出来ている。
- ・これまでの実績をもとに社会福祉協議会の補助金を申請し、事業規模を拡大することとしている。広く参加を呼びかけることで地域住民の老人クラブ活動への理解を促進し、新規加入者の増加にもつながるものである。

課題/解決に向けての取り組み

- ・参加児童の変動

学校・部活の行事により多少の参加人数の増減があるが、これは仕方のないことだと思っている。

今後の展開

同じ様な取り組みを長く続けていく。

連携団体

小学校、校区内の総合病院レストラン部、校区内の農家

問い合わせ

		 or 
	090-7475-5222 (担当者氏名 辻田 文江)	

とよだ地域食堂りん

活動を始めるきっかけ/活動概要

2024 年に開設。毎月 1 回第 4 日曜日に開催。

昼食の提供を行っています。

豊田校区は農村地帯で近年は熊本市のベッドタウンとして核家族、共働き夫婦の世帯が増えています。また独居老人の数も年々増えています。

そんな背景を持つ豊田校区にはまだ子ども食堂が無かったため、月に 1 回でも交流の場を作り、楽しい時間を過ごすことで孤独、孤立の予防になればと考えて活動を始めました。

まずは食堂で交流の場を作ろうと地域食堂を始めました。子供も大人も集える場所で楽しい時間を過ごしていただくこと。ボランティアに来てくださる方々も楽しい雰囲気の中で過ごしていただく場所づくりを目指しています。今年度より e-スポーツ等も取り入れてレクの時間を作る計画をしています。またバザーも行っています。

重点的に取り組んだこと/成果

1 年目は食事を提供することが中心で参加者の交流が中心になりました。子ども連れの家族や高齢者のグループ参加による交流が中心となりました。

広報活動はチラシを回覧に入れたり、老人福祉センターやコミセン、児童館、図書館、公民館などに貼っていただきました。インスタグラム、公式ラインも行いましたが技術的に未熟で効果は未知数です。夏祭り、クリスマス会も行いました。

課題/解決に向けての取り組み

参加されている方々が、地域食堂に何を望まれているのか確実に把握できていないため、アンケートや会話の中から今後の取り組みを考えていきたいと思っています。利用者の方が楽しみにしてくださるようなレクレーションや e-スポーツも取り入れてい句予定です。

インスタグラムや公式ラインの活用も確実にできるようにしてゆきます。

またいずれは相談コーナーの設置も行い地域と連携していきたいと思っています。

食育についても子供たちが自分でおやつや食事を作ることを体験する機会等をもうけたいと計画しています。

連携団体

熊本県子ども食堂ネットワーク

問い合わせ

		
	080-5742-4669 小林きよみ	Toyoda.rin

子どもが生きられる世界 ゆりりん食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

『熊本の子育て応援をしよう！』との思いから、コロナ禍真ただ中から開催した。はじめの1年間は、会場が借りられなかった為、自宅で毎月1回の弁当配布をしたが、初年度から、『コロナ禍だからこそ親子が集まれる大きなイベントをしよう』と考え、『夏まつり』『江津湖水遊び』『餅つき大会』など、外での子ども食堂開催にも挑戦してきた。参加者は毎年少しづつ増えて昨年は、江津湖で300名近くの夏祭りを開催することができた。

現在は、東町地域コミュニティセンターでの開催が定着し、第4火曜日の夕ご飯として、会食形式で提供している。



重点的に取り組んだこと/成果

①「食育」：野菜中心の和食であること。必ず味噌汁を出す。愛情が調味料。

私たちのカラダは、食べたものでできている。家庭でのおかずは、肉食中心ではないだろうか？と予想して、野菜を中心にした和食のおかずを心がけている。

➡成果としては、子どもたちが美味しいと言って良く食べることはないだろうか。

②『相生の心』：思いあい/助け合い/考えあう…日本人ならば誰もが兼ね備えているココロを子どもたちに育みたいテーマとして掲げている。

➡成果としては、『お手伝い』を率先してくれる子どもたちの姿がある。食事の後片付けや受付の手伝い、また6月には恒例の【子どもボランティア】がカレーライスづくりをする取り組みには、多数の子どもたちが参加した。

③江津湖イベント：【夏まつり】【江津湖で水遊び】【餅つき大会】【お花見親睦会】

➡成果としては、江津湖で開催するイベントを、みんなが楽しみにしてくれていること。

江津湖の水遊びと、お花見親睦会は、夏休み/春休み応援企画として毎回『王将弁当』に応募して、無料提供ができています。餅つき大会は、親たちが率先して餅をついてくれるので、親子での楽しい季節の行事として定着した。夏まつりは、毎回予算0円で企画しているが、寄付が集まり実現している。また、理解者/協力者が増えており、人気ドーナツ店が安く提供してくれたり、この時ばかりはと…20名以上のボランティアに協力いただき、300名近い参加者に楽しんでもらうことができるようになった。



課題/解決に向けての取り組み

ボランティア不足 / 毎月お手伝いをしてくれる方が遠くから来ていたり、長時間労働で負担をかけていることが申し訳ない状態であり、近隣の方にボランティアしていただけないか？声掛けをしているところである。

資金不足 / 助成金に応募。企業へのお願い。農家さんへのお願い。

今後の展開

何とか安定して開催ができていることに感謝して、現状維持（年間13回以上）していく。

連携団体

山下ファーム/杉本農園/東町地域コミュニティセンター/TATOMIYA/

こども食堂 おにぎりく Love

活動を始めるきっかけ/活動概要

核家族化や共働き世帯の家族が増加している地域で子育て世代の不安解消や地域全体で子育てを支える環境づくりを行うため、対象者に対し参加しやすい講座等を実施、子育て世代の親の相談交流の場をつくり子どもの健全な育成を図る事を目的とする。

また、高齢者や小さい子ども達にお腹いっぱいにご飯をとってもらい、心も体も元気になるようにしたいという想いで活動しています。



重点的に取り組んだこと/成果

野菜をふんだんに使ったメニューなど田舎料理を提供するなど工夫をしました。
家族連れの方から、野菜を食べない子がここに来ると食べてくれるから嬉しいと感想頂いたり、会食をすることで高齢者と若者との交流があり地域全体で子育てを行う環境づくりに寄与できた。

課題/解決に向けての取り組み

今後は、高齢者の参加者を増やし、孤独で食事をする事なく楽しい食事ができる場としてたくさんの人に知ってもらいたい。
また、高齢者や子どもの貧困をなくす事に努めたい。

今後の展開

SNS や掲示を増やし、参加者を増やしていきたい。
イベントなどを考えているので、高齢者と若者との交流を増やし地域社会のコミュニケーション円滑化を図りたい。

連携団体

熊本市西区中島校区 こども食堂まんまる

問い合わせ

		 or 
	(担当者氏名)	onigirikulove (インスタグラム)

月出まんぱく食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

活動を始めるきっかけ

月出小学校校区にはこども食堂がなかったため、開設を検討していました。開催にあたっては、NPO 法人コレクティブ様に月出校区内にて会場をご提供いただけたことから、活動をスタートさせることができました。現在は、NPO 法人コレクティブの皆様と熊本県立大学の学生ボランティアが協力しながら活動を進めています。

活動概要

2024 年度は食事提供事業を 20 回開催する予定でしたが、それを上回る計 21 回の開催が実現しました。ボランティアの皆様のご協力や、地域の方々からの食材提供に支えられての実施となりました。また、地域の小学校と連携し、こども食堂の意義を伝える授業も行うなど、活動の幅を広げることができました。

重点的に取り組んだこと/成果

重点的に取り組んだこと

栄養バランスの取れた朝食を提供すること。たのしく食事できる場所を提供すること。
以下に、提供した食事の写真（一部）を示します。





成果

2024 年度の利用者数は、延べ 298 名でした（平均利用者数（回）：子ども 11.8 名、大人 2.4 名）。1 回あたりの参加人数は、広報等によりもう少し増やせた可能性があります、初年度としては十分な子どもたちと保護者が参加してくれました。参加者数の推移から、当食堂が子どもたちにとって安心して食事ができる場として、定着しつつあると考えています。

また、地域の小学校とも連携し、こども食堂の意義を伝える授業を行うなど、活動の幅を広げることができました。

課題/解決に向けての取り組み

課題

1 年間の運営を通じて地域の方の理解が広がり、お米や野菜等の寄付やボランティアの申し出が増えたことは、2024 年度の成果と言えます。しかしながら、運営にあたっては最低限の予算が必要となるため、安定した財源の確保が課題と言えます。

解決に向けての取り組み

数年は助成金による運営になることを想定しています。寄付金を募るなどの方法を模索する予定です。

今後の展開

1 年の活動を通じて、活動継続の見通しが立ってきました。今後も持続可能な方法で、地域の子供達やその保護者に向けて、朝食（夏休み期間のみ昼食）を提供していく予定です。食事提供を通じて、子どもたちの成長や月出地域に貢献できるように活動を進めていきます。

連携団体

特定非営利活動法人 コレクティブ様
月出小学校様

問い合わせ

✉	☎	f or 📷
	096-234-6547 坂本	



活動を始めるきっかけ/活動概要

一新校区は、近年マンションの増加に伴い、居住者数は増加している一方で、地域住民との繋がりや世代間の交流が希薄になってきています。そのような中で、貧困による生活困窮者や共働き世帯における孤食児童の増加は、この一新校区でも例外ではなく、地域課題の一つであります。情報を収集することは困難であり、こども食堂設立を通して子どもの孤食や孤立を防ぐことを主な目的としてスタートしました。

重点的に取り組んだこと/成果

活動開始から2年目を迎えました。徐々に参加してくれる子供たちも増え、毎回定員以上の子供たちが参加してくれるようになりました。1年目は、子供たちの認知度を上げるためチラシを配ったり、教室に張り紙をしてもらったりして周知を図りました。また、子供たち同士が口コミで地域の子ども食堂のことを広めてくれました。今では、遊ぶ約束をして多くの友達を誘って来てくれるようになりました。



課題/解決に向けての取り組み

ピンポイントで対象児童を集めることは不可能に近いこともあり、まずは、認知度を高め参加人数を増やしていくことに尽力しました。また、みんなでご飯を食べる楽しさを味わってもらうため、広いホールで食事をするのではなく、狭い畳の部屋で食事をするようにしています。またキッチンの横に和室があるため、地域の方が準備をしている姿を見ることができたり、地域の方と何気ない会話ができたりする、良い空間になってきています。

今後の展開

今後は、コドモ食堂で提供する食事の内容の見直しやレクレーションの充実も検討しながら、楽しく集える空間を目指していきます。また、地域福祉団体とも連携し、障がい児者に対する相談の場所及びコミュニティづくりを目指しています。

連携団体

一新校区社会福祉協議会
社会福祉法人 藤崎台童園

問い合わせ

		 or 
	(担当者氏名) 藤崎台童園 三芳野 096-352-5063	

地域コミュニティ食堂 Onn+

活動を始めるきっかけ/活動概要

高齢化と子育ての二分化される地域のコミュニティの場づくりとして横のつながりを深めようと思い始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

行きやすい、行って楽しかったと思ってもらえる場づくり

課題/解決に向けての取り組み

ボランティアの高齢化（若手の育成・協力者を募る必要性）を感じているので声をかけつづけている

今後の展開

地域を巻き込みバックアップをしてもらいながら地域の住民の人達が1ヵ月に1回の楽しみと思ってもらえるよう子供からお年寄りが足を運びやすくなるようにイベント等行っていく

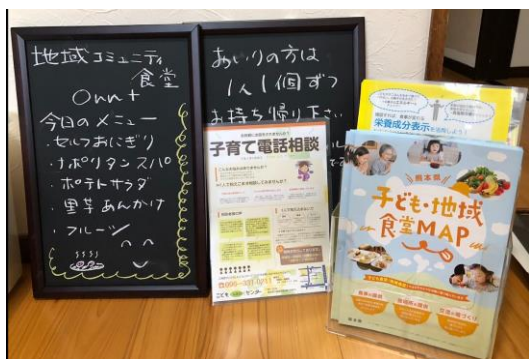
連携団体

- ・熊本市社会福祉協議会
- ・秋津社協
- ・食生活改善普及員
- ・ささえりあ
- ・秋津子ども会
- ・青少協
- ・民生委員
- ・秋津自治会

問い合わせ

		 or 
a.miyasaki.95@gmail.com	090-9722-5939	Instagram Onn_plus

活動写真



釜ぐみ

活動を始めるきっかけ/活動概要

共働き家庭やひとり親家庭が増え、子どもたちが一人で食事をする「孤食」が大きな課題となっています。特に、親が仕事で忙しく「今晚のご飯は1人で食べるんだ」「お母さんがお仕事だから、お弁当を買って食べる」といった子どもたちの声を聞き、食事がただ栄養を取るだけの行為ではなく、温かいコミュニケーションの場であるべきだと改めて考えました。

また、子どもたちだけではなく、毎日忙しく働く保護者にとっても、家事や育児の負担は大きく学童のお弁当を準備したり、習い事や学童への送迎、兄弟げんかの仲裁など、一息つく暇もない日々です。夜勤明けでまともに寝る時間も取れない保護者に、たった1回でも家事を休んでゆっくりしてほしい、そんな願いから「釜ぐみ・子ども食堂」は始まりました。

重点的に取り組んだこと/成果

私たちは、子ども食堂の運営において「一汁三菜」の食事提供に重点的に取り組んでいます。一品料理ではなく、ご飯、汁物、主菜、副菜二品を組み合わせることで、子どもたちにバランスの取れた食事を提供することを目指しています。

この取り組みの大きな特徴は、季節感を大切にしながら、旬の食材を積極的に取り入れることです。四季折々の食材を使うことで、子どもたちはその季節ならではの味覚を楽しみながら、栄養価の高い食事を摂ることができます。色とりどりの野菜をふんだんに使うことで、見た目にも食欲をそそり、自然と野菜を食べる習慣が身につくよう工夫しています。

この取り組みの成果として、子どもたちは以前よりも多くの野菜を摂取できるようになりました。食事の時間を通じて、食材に対する興味を持ち、自ら進んで野菜を食べる姿が見られるようになり、大きな成長を感じています。食べる楽しさを伝えながら、健康的な食習慣を育むことができていることに喜びを感じています。保護者からも物価が高騰していて沢山の野菜を使うのが難しいので、嬉しいとの声もいただいています。

課題/解決に向けての取り組み

ボランティア不足、今は毎回5名程度で調理をしていて、人数的には丁度足りていますが、急病や急用などで欠席の場合がどうすればいいのか毎回不安。多すぎても手持ち無沙汰になってしまふ。解決に向けての取り組みはボランティアの方の知り合いなどにたまに来ていただき、声かけができるようにしている。

今後の展開

子供達と一緒に料理をするワークショップ：「家庭料理教室」として、高齢者の知恵を伝えつつ、子どもたちと料理をしたい。そのために助成金なども応募したい。

連携団体

一般社団法人 熊本県こども食堂ネットワーク



問い合わせ

		 or 
tamrara55@yahoo.co.jp	090-7471-0606 (担当者氏名 釜崎)	https:// www.instagram.com/kama.gumi? igsh=a2hlZTJmbWUxd3dn

NPO 法人くまもと相談所

活動を始めるきっかけ/活動概要

活動を始めるきっかけとなったのは、家庭内で様々な事情を抱えた女の子との出会いです。あれから、9年が経過しました。

私たちは、子どもたちの心の中に、様々な「種」（信頼、安心、温もり、愛情等）をまいて、その種が、その子の人生のどこかで芽を出し、成長し、前へ進むエネルギーとなることを願って活動を続けています。

2024年度からは、女性の自立支援事業と合わせて、子ども食堂の活動に収益の一部を使うことができるように、熊本市東区でお弁当屋をスタートさせました。よって、これまで年に13回ほど活動を行ってまいりましたが、2024年からは、年4~5回と実施回数は減りました。

重点的に取り組んだこと/成果

2023年度から、地域の高齢福祉事業を行っている「デイホーム土屋」様や、地域包括支援センターささえりあ様とコラボで、夏祭りを開催することができました。

2024年度は、デイホーム土屋様と一緒に、当所のお弁当屋で調理を行い、開催場所のかき氷やジュースの配布を行いました。

子どもたちは、自分が好きな味のかき氷のシロップやジュースを選び大喜びでした。また、気になる参加者の方には、次回開催時期や他団体様の開催について情報を得ることができるサイトなどをご案内しました。

様々な社会資源につながるができるように、情報発信も心がけて活動を行っています。

課題/解決に向けての取り組み

各小学校区に1か所は公設の子ども食堂（居場所）が必要ではないかと、関係機関に訴え続け5年以上経過しました。もちろん、簡単なことではないのでなかなか実現できません。よって、ゆくゆく自立した活動ができるように、お弁当屋をスタートしました。数年後は、子どもたちがいつでも、立ち寄ることができる居場所を作っていければと思っています。

今後の展開

今後は、活動をNPO法人から障がい福祉サービスを展開する事業所へと移行していくことを考えています。

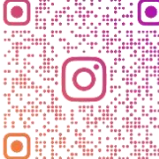
地域の各団体・企業様、子どもたち、地域の高齢者の方、障がいのある方、地域全体で参加できる「地域食堂、地域活動」を展開したいと思います。

連携団体

- ・熊本市
- ・デイホーム土屋様
- ・ささえりあ あさひば様
- ・子どもから地域へ拡がれネットワーク様
- ・フードバンクママトコ様
- ・南阿蘇 田尻農園様
- ・ビッグ 桜木店様
- ・tete・a・teten 様 等



問い合わせ

✉	☎	f or 📷
Kuma2soudan@gmail.com	08027843661 (山口) (担当者氏名)	 Instagram

たくにしきずな食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

令和3年当時、コロナ感染拡大により外出が制限される中、お年寄りから「どこも行くところがない」という声を聴き、校区社協長の立場から地元の民生委員や諸団体に呼び掛け、令和3年4月に「たくにしきずな食堂実行委員会」を立上げ、同年7月プレ開催にこぎつけた。しかし、コロナ感染拡大がつづき同年11月からスタートでき令和7年3月現在35回の開催ができた。

重点的に取り組んだこと/成果

子供から高齢者までの集いの場をメインテーマに、食事提供や、フードパントリーと同じくふれあいの場としての「昔遊び・折り紙教室・キッズダンスなど」に重点を置いている。

課題/解決に向けての取り組み

地域の認知度が深まるにつれ、物資提供も充実してきており、運営が当初に比べやりやすくなっている。今後は、継続的ができる運営体制、人の充実を図りたい。

今後の展開

とにかく継続することが大切であり、この地域の灯を絶やさないよう、背伸びせず、参加者の意向を取り入れた活動にしたい。

連携団体

託麻西校区社会福祉協議会、同自治協議会、同民生児童委員、ささえりあ保田窪、県子ども食堂ネットワーク、西日本病院、市社会福祉協議会、TSUDOUネット、託麻西小学校 等

問い合わせ

		 or 
熊本市東区御領4丁目3-5	096-380-2309 大島完治（担当者氏名）	

令和6年度たくにしきずな食堂活動記録

○会場 4町内公民館

○受付とテキストを使い食育

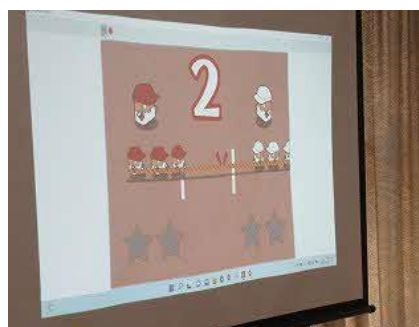


○ 調理風景

○出来上がったカレー（持ち帰り）



○eスポーツ 子どもと大人のゲーム対決 9月



○昔遊び 皆で輪になってお手玉遊び＆折り紙 10月



むさし子ども食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

子どもをはじめとする地域の人たちが安心して集える居場所づくりをしたいとおもいました。栄養バランスのとれたあたたかな食事を安価で提供することを目的に 2022 年から活動しています。

活動場所：日本基督教団武蔵ヶ丘教会をお借りしています。

武蔵塚駅の近くです

活動日：毎月第4土曜日 11時30分～

子ども 100 円、大人 300 円

予約不要で 20 食程度準備しています。

会食と同時にパントリーやミニバザーも行っています。



→会食が終わっても
帰りがたいお子さんも！



学校帰りに自習室代わりに顔を出してくれる高校生もいます。
みんなの居場所になれたらうれしいです

重点的に取り組んだこと/成果

地域の皆さんが安心して集える居場所になりたいと願っています。

参加した方からのご要望にお応えしてスマホ教室やおもちつきなどのイベントも行いました。続けて来ている子ども達がデザート作りを張り切って手伝ってくれます。スタッフだけでなく参加者の皆さんと一緒に作り上げる食堂となってきました。



課題/解決に向けての取り組み

活動資金の獲得が厳しいです。熊本市の未来応援基金を活用させていただきありがとうございます。多くの方に活動を知っていただき、応援をしていただけるように願っています。ボランティアで活動に参加してくださる方を募集しています。

今後の展開

小さな活動ですが、皆さんからお支えを頂き 4 年目を迎えることができました。多くの方が自然に交流できるみんなの居場所であり続けることができますように、毎回毎回の活動を大切にしていきたいと思います。

連携団体

TSUDOU・NET、熊本県子ども食堂ネットワーク、フードバンクママトコ
むすびえ

問い合わせ

		 or 
musashikodomo2022@gmail.com	096-339-0330 (大田美奈子)	

認定 NP0 法人ポピンズくまもと

活動を始めるきっかけ/活動概要

2020年4月、コロナ禍の休校中に、地域の保護者の方々からの不安の SOS に応える形で、お弁当配りからスタート。2021年6月からは Fu-Rin 堂の厨房を借りて、食堂形式に発展させ、「地域食堂ぽぴカフェ」の名前で活動している。現在は月に1~2回、平日や土曜に開催。公式 LINE からお友達登録をしてもらい、開催日等の情報を発信している。お弁当の準備・配布と並行して、食育活動にも力を入れている。毎回、子どもたちがデザートを自分で作るなどのワークショップを開催。材料は地域の農家や、老人会の方々が提供して下さる旬のお野菜や果物。簡単にできるデザート作りは好評で、回を追うごとに利用者が増え、現在では2つの小学校区から子どもたちが参加している。また、屋外で実施しているため、通りかかった方々が関心を持ってくださり、地域の一人暮らしの老人も参加するようになるなど、地域食堂として、なくてはならない居場所になっていることを実感している。当初30食から始めたお弁当も、来場者が増え、短期間の間に、50食から70食を配布するまでに拡大した。子どもたちがゲームから離れて、集う場所があることを保護者も喜んでいる。子どもたちも、毎回のワークショップを通して「これまでに経験のないことを体験する」楽しさを感じている様子である。さらには、保護者の悩み相談にも対応しており、じっくり話を聞き、必要によっては関係機関を紹介するなど、「話してよかった」と大変喜ばれている。

重点的に取り組んだこと/成果

令和6年度は、地域の他機関との連携について重点的に取り組んだ。森都心プラザ図書館、高齢者支援センターささええりあ花陵、熊本市障がい者相談支援センターすてっぷ、KDS ネクストカレッジ@熊本駅前、熊本市社会福祉協議会西区事務所など、多くの支援者を得て、夏休みのイベント・秋祭りを盛り上げることができた。地元の小学校では、生活の授業で「町探検」に採択され、親睦を深めることができた。別の小学校からも PTA 主催のお祭りに招待されるなど、これまで最も学校はじめとした地域からの信頼を得ることができたと実感している。

以上のことから、今年度の事業の目標は達成できたと考える。

課題/解決に向けての取り組み

毎年の課題は変わらず、資金の調達である。積極的に SNS などを活用し、活動をアピールし、企業はじめ市民の賛同を得られるよう、努力したい。

今後の展開

今後もアウトリーチに力を入れ、「地域で繋がる」支援を継続していきたい。

連携団体

森都心プラザ図書館、高齢者支援センターささえりあ花陵、熊本市障がい者相談支援センターすてっぷ、KDS ネクストカレッジ@熊本駅前、熊本市社会福祉協議会西区事務所

問い合わせ

		 or 
pk.only .connect@gmail.com	070-5274-0762 (担当者氏名 藤山)	https://www.instagram.com/popi.cafe



パティオ



活動を始めるきっかけ/活動概要

現在、県営東町団地は高齢化が進み、独居の方や障がいのある方の入居も多い状況です。また、東町校区全体も、共働き世帯や、ひとり親世帯、貧困で生活が困難な世帯もある状況です。そのような世帯や、子ども、高齢者を対象に「孤食や孤立の予防」、「食育推進」、「安心できる居場所づくり」を行いたいと思いました。

また、学習支援については学習習慣を身に付けてもらい、学力向上だけでなく、高校生や大学生と学習・対話することで進学への具体像を描いてもらい、学習や将来(進路など)への意欲の向上につなげ、信頼できる大人(学生含む)とのかかわりによって、パティオが安心してくつろげる居場所になるような活動を行います。

重点的に取り組んだこと/成果

《取り組み》

- 1) 毎週 2 回(水曜日と金曜日)に軽食(うどん・そば・カレーなど)を安価で提供し、毎月第 3 土曜日に弁当の配布(提供)を行いました。
- 2) 弁当配布時に食材や生活用品などの寄付物資を提供しました。
- 3) 番外編で「パティオの秋まつり」と題して、10 月に屋外で焼きそばの提供、移動販売による団子やパンの販売を行いました。
- 4) 夏休みには、特別企画として学習支援と食育を行いました。
- 5) 毎月広報紙を作成し、東町団地や近隣住宅にポスティングを行いました。

◆◇ 成果 ◇◆

広報紙のポスティング効果もあり、少しずつ認知され、毎回参加者が増えました。それに伴い、子ども地域食堂の食数も多くなりました。参加者から「おいしかった」「量がちょうどいい」「(弁当を)月 2 回に増やしてほしい」などの声を頂戴しました。屋外イベントは雨天でしたが、地域住民の方がたくさん来て下さり、大盛況でした。

課題/解決に向けての取り組み

【課題】

東町団地には子供会がなく、近隣に小学校があるものの子どもたちの利用が少ない状況です。東町小学校のひなんの家にも協力しているので、子どもたちが気軽に立ち寄りやすい場所になるような活動をしていきたいと思います。そのためにはまず子どもたちや保護者にパティオを知っていただくことが課題です。

【取り組み】

東部まちづくりセンターに相談し、東町校区 2 町内・3 町内・5 町内・6 町内・7 町内、東町コミュニティセンターに広報紙(子ども地域食堂と学習支援の情報を含む)を配布してもらうことに成功しました。

今後の展開

- 1) 少しずつではありますが参加者も増えてきているため、食数や回数も増やしながら子ども地域食堂・学習支援を継続していきたいです。
- 2) 現在、毎月第三土曜日に手作り弁当を提供しています。孤食や孤立対策として今後は会食形式にして地域住民の居場所づくりにも力を入れていきたいです。
- 3) ひとり親家庭や生活が困難な家庭の方に、食材などの物資提供も増やしたいです。
- 4) 学習支援については、熊本県立東稜高等学校の生徒さん達がボランティアで講師をして下さり、保護者にも好評だったので今後も継続していきたいです。

連携団体

- ・とうや医療福祉グループ(医療法人清和会、社会福祉法人百八会)
- ・東町校区自治会(1 町内・2 町内・3 町内・5 町内・6 町内・7 町内)
- ・東町地域コミュニティセンター ・熊本市社会福祉協議会東区事務所
- ・熊本県地域福祉課 ・熊本市子ども政策課 ・東区役所保健子ども課
- ・東部まちづくりセンター ・秋津まちづくりセンター ・JA 熊本市女性部会
- ・熊本県ひとり親家庭福祉協議会 ・高齢者支援センターささえりあ尾ノ上
- ・一社)熊本県子ども食堂ネットワーク ・TSUDOU・NET 熊本
- ・NPO)全国こども食堂支援センターむすびえ ・一社)全国食支援活動協力会
- ・熊本県立東稜高等学校

問い合わせ

		 or 
higashi-kouryu@108kai.com	096-285-4800 (担当者氏名 橋本・春木)	—



軽食利用中の小学生



軽食のうどん



子ども地域食堂パティオ 受取のようす①



軽食メニューで一番人気のカレー



子ども地域食堂パティオ 受取のようす②



パティオの秋まつりのようす



夏休み企画 食育



学習支援のようす

縁側サロン竹ちゃんち

活動を始めるきっかけ/活動概要

11 年前に子育てサークルとしてスタートし、2016 年 5 月より子育て支援を主としたことも、地域食堂として熊本地震後に間口を広げた。こどもだけでなく親の子育てをサポートする必要を感じた。自宅開放の南区拠点と 2021 年 12 月より西区賃貸家屋にて地域コミュニティ食堂を開設した。2 拠点にて、月に 6 回をベースに季節のイベントを取り入れている。平日は子育てサロン、放課後のこども達の居場所として開放。

重点的に取り組んだこと/成果

孤立しない育児支援→こどもの遊び場や親子の交流の場の提供により、こどもの異年齢との交流が出来た。親子の交流が出来き情報交換が出来不安や悩みを話すことで、ほっと出来不安の解消へとつながった。親子同士で一緒にご飯を食べることで、楽しい食の時間を共にする事が出来ていた。

高齢者の食のサポート→一人暮らしや老夫婦にとって食事を作ることに負担があるとご利用の皆様より有り、また、物価高騰もあいなって食材もそんなに買えない。年金だけでは生活の困難を話される。1 食のおかず支援を活動日に提供した。週に一度でも助かると喜ばれた。25 食～30 食毎回提供している。また、取りに来ることで集まりの時間となり、一人暮らしの方にとっては良いコミュニティの場となっている。

課題/解決に向けての取り組み

物価高騰により、子育て世帯やひとり親家庭においては、食への困難が有る。無料配布等には、多くの方々が手を挙げる状況がある。子育て世帯、ひとり親家庭、働くママ達への食(弁当や惣菜)支援は、必須と感じる。手をかけて作る時間がなく、簡単な物が食事として出されている現状もある。こども達の栄養や満足度の減少が心配される。出来る限りの、惣菜提供や親子で作れる簡単おかず等の食育料理会等も開催している。

今後の展開

時間に追われる毎日の子育て世帯へのサポートととして、週に一度ペースで夕食のご飯支援を行う。

多忙な親子のコミュニケーションの不足を解消するために、親子で一緒に作る料理会の数を増やして行く。

父親への料理会も行いたい。

連携団体

一社)熊本県こども食堂ネットワーク、熊本県コーディネーターひとり親家庭福祉協議会、フードバンク熊本、フードバンクママトコ、校区社協、自治会、こども会

問い合わせ

		 or 
merimero3002@gmail.com	090-5726-2504 竹下紀子(担当者氏名)	Facebook(縁側サロン竹ちゃんち)Instagram(noriko.takeshita)

陽だまりの樹(尾ノ上コミュニティ食堂、コミュニティハウス)

活動を始めるきっかけ/活動概要

共働きやひとり親世帯、一人暮らし高齢者の家庭が増え、子どもや高齢者の孤食が増えていきます。小学校の給食がない日や代休の日に、自宅に昼食がなく、お金だけ渡されコンビニや駄菓子屋などで買って食べる子どもも多く、働く親にとっても、朝から子どもの昼食を準備して仕事に行くのは負担が大きく、そのような親の負担を減らすためにも、みんなで集まって楽しく温かい食事をしてほしいという想いで始めました。

また、子どもたちと一緒に食事の支度や、おやつ作りをすることで、食に関心を持ち、きちんとした食事をとることの大切さを教えていたり、放課後や学校が休みの日に一人で過ごすのではなく、友達と一緒に食事したり遊んだりする居場所でありたいと思っています。

ひとり親世帯の大変さはもとより、コロナ以降収入が減った世帯も多く、また孤食を少しでも減らしたいとの思いがあり、誰もが参加できる「コミュニティ食堂」にすることで皆が気兼ねなく利用でき、子どもや高齢者が地域とのかかわりを深めていける場所にしたいという想いで続けています。

2024年度には安心していつでも使える調理場と、子ども達の居場所として使えるコミュニティハウス陽だまりの樹を開設。こども食堂の仕込みの調理場として、放課後の居場所として、子ども料理教室の開催場所として活用しています。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度は拠点の開設を目指して昨年度から助成金を取り、厨房機器などを前もって手配するなど準備をしてきた。今まで使っていた場所が使えなくなり、食堂開催時の調理場や、物資などを置く場所の確保が必要だったため、安定して使える場所の確保と、子ども達の居場所としての活動も視野に入れ、業務用の厨房機器に加え、子ども用のゲームなどにも使える機材をそろえた。完成後は、放課後の居場所や、子ども料理教室など、活用している。

昨年に引き続き。夏休みの学習支援として絵画教室行い、プロの画家の先生に絵画の指導をしていただいたり、学生ボランティアの方々に宿題を見ていただいたりしました。

イベントにも力を入れ、今年も秋祭りを京塚繁栄会と共同で開催。

クリスマスには、えほん楽団の方に来ていただき、クラシックコンサートを親子で楽しんでいただきました。

陽だまりの樹が一番大切にしているイベント、普段子ども食堂に参加していない子供たちもたくさん参加するので、広報にもなっています。

月に一度、フードドライブ品などを応援セットという形で、ひとり親家庭や、生活困窮家庭にお渡ししています。登録数も今年は37世帯に増え、必要性も高まっています。誰でも利用できる食堂でありながら、支援の必要な家庭には少し厚めの支援を入れられる体制は今後も整えていきたいです。

会食



夏休み絵画教室、秋祭り、クリスマス会、お仕事体験イベント



コミュニティハウス 子ども料理教室、居場所



課題/解決に向けての取り組み

今回拠点を作るにあたって、キューピーみらいたまご財団の助成金と、以前いただいた寄付を使い工事を行いました。物価高騰の影響で、予算よりかなりオーバーしてしまいました。

運営資金は助成金に頼らざるを得ない状況は相変わらずではありますが、寄付や講演料などで運営費を多少賄えるようになっていきます。

助成金の取り方も、無理なく運営でき、報告書などの負担も減らせるよう、項目ごとに分けて使うなどの工夫をしています。

今後の展開

拠点を構えたことで、自由な使い方が出来るようになったので、学習支援や子どもの料理教室など、少人数で無理なくできることを増やしていきたい。

また、長期休みなどの学習支援など、学資ボランティアに参加してもらえる活動も広がっていきたい。

連携団体

一般社団法人 熊本県こども食堂ネットワーク
フードバンク熊本
フードバンクひのくに
フードバンクママトコ
FamilyMart 九品寺店
ささえりあ
きらきら星ゾデン
社会福祉法人熊本県ひとり親家庭福祉協議会
生活協同組合熊本
京塚繁栄会

問い合わせ

		 or 
Ymymt223@gmail.com	090-4355-3320（堤雅）	尾ノ上コミュニティ食堂《陽だまりの樹》 Facebook

桜木東食堂 陽だまり

活動を始めるきっかけ/活動概要

「桜木東食堂 陽だまり」の運営は、桜木東校区社会福祉協議会がしています。

活動のきっかけは、校区民に具体的な社会貢献が出来る事はないかと検討している時に新聞紙上に「子どもの貧困、孤食、ヤングケアラー、大人の孤立、孤食、ひきこもり」の記事が多く掲載されていました。

そして、「子ども食堂」を開催して困り事の課題解決に貢献している。

又、「子ども食堂」を校区に1カ所創りたいとの記事を読んで、校区・行政で情報収集し、課題解決の需要があると理解して、桜木東校区に社会福祉協議会が令和4年4月に開設しました。

現在は、毎月第2日曜に・11時～13時に会食形式・テイクアウト形式併用で「カレー弁当」を提供しています。

- ・ 毎回利用参加者は：100名です。
- ・ スタッフは：約23名のボランティアで運営しています。



「陽だまり」横断幕



「陽だまり」役員

重点的に取り組んだこと/成果

「桜木東食堂 陽だまり」は「食」を通して、「コミュニケーションの場づくり・集いの場づくり・相談の場づくり」の温かい居場所づくりを目指しています。

令和7年度から、テイクアウト形式から会食形式・テイクアウト形式併用で開催し、心を開いて多世代交流できる環境づくりを目指します。



陽だまり来場者 受付中



コミセン調理室 調理担当4名

課題/解決に向けての取り組み

「子どもの貧困、孤食、ヤングケアラー・大人の孤立、孤食、ひきこもり」の課題は見えてないのが現状です。

困り事は簡単には話さないし、表面に出ません。

今までのテイクアウト形式とイベントでは対話、会話、交流が出来ないので、会食形式で開催し対話、会話ができる環境づくりをしました。

ひとり親家庭は、3組と交流しています。



カレー弁当準備中



会食を楽しみました。

今後の展開

「桜木東食堂 陽だまり」は

「コミュニケーションの場づくり・集いの場づくり・相談の場づくり」の温かく、楽しい居場所づくりを目指しています。

この目的を実現するように多世代交流が出来る環境づくりをして、互いに協力し助け合い、明るく笑顔あふれる桜木東校区になれば幸いです。



フードドライブ品 お裾分け



クリスマスバージョンで開催スタッフ

連携団体

- ・自治会・体育協会・まちづくり会・青少年健全育成会・防犯協会・公民館
- ・交通安全協議会・民生委員児童委員協議会・桜木東地域コミュニティセンター
- ・桜木東小学校・子供会

Yell つながるカフェ

活動を始めるきっかけ/活動概要

子どもの健全育成のためには子育て中の親への支援が必要と考え、2012 年より子育てサロンやお預かりなどの子育て支援を開始しました。2017 年 9 月より食を通じた支援・食育活動として主に就園前の親子を対象としたこども・親子食堂を毎月 1 回開催しています。

重点的に取り組んだこと/成果

子どもたちにいろんな体験をしてほしいと考え「自分でやってみる、親子で作る」を意識して 1～3 歳児が「自分でもできる、手形を取る、シールを張る、絵を描く」などを取り入れた製作物を作るワークショップなどを取り入れて開催しています。食事はビュッフェ形式で、離乳食でも食べられるメニューや取り分けできる作り方など工夫しました。また、保護者どうし（主に母親）同年齢の子どもとのことで話ができて、仲良くなり「ゆっくりたべる時間も楽しみです。リフレッシュしています！」との声も聞かれています。季節の行事も取り入れて「ライスペーパーで作るこいのぼりスイーツ」や自分たちでシールを貼って作る「空飛ぶクジラのオリジナル風鈴作り」、見た目と栄養を考えたお雛様の「カップちらし寿司作り」など、製作物やご飯のメニューで季節を感じる工夫をしています。こどもの中には人見知りや場所見知りで泣いてばかりいる子や動き回ってばかりいる子も、参加を重ねるうちに少しずつ落ち着き、成長する姿も見られており、社会性を培う場ともなっています。





課題/解決に向けての取り組み

参加者はSNSで見えて参加、の方が多いのですが、孤立した子育てをしているママたちへのアプローチができていないのか不明です。告知方法の工夫や参加しやすい形態を再考し、子育てに関する機関へのチラシ配布なども検討してみようと思います。また、活動費が年々減少していること（寄付の減少と物価の高騰）で、活動縮小することがないように自主事業の拡大も検討していこうと思います。

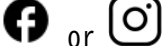
今後の展開

これまで同様の活動は継続実施していきます。また、ママたちの交流を深めるような場づくり、ママの社会復帰に向けて不安にならないよう、話をできる場づくりをしていこうと思います。

連携団体

一社）熊本県こども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、フードバンクママトコ、フードバンクひのくに、孤独孤立支援ネットワーク、子ども食堂の仲間たち

問い合わせ

		
child.yell@gmail.com	090-9599-4788 （担当者氏名 高井眞弓）	Yell（エール） Facebook

フードリボン IN どんぐりの森

活動を始めるきっかけ/活動概要

日本の子どもの7人～8人に1人が貧困で充分にご飯を食べることができないことを知り、少しずつでも安心して食事できる場所を提供することはもちろんですが、地域の子どものよりどころになればという思いでスタートしました。

重点的に取り組んだこと/成果

本年度は物価高騰などでお困りのご家庭へお弁当の提供や、中長期休みにはたまがおやお米の配布活動を行いました。毎年行っているかき氷大会やクリスマスケーキ飾りつけ大会は、今年は受入人数を増やし、子どもたちはもちろん、ご家族で楽しいひと時を過ごして頂いたと思っています。おなかだけではなく、心も希望を持てるような取り組みを、今後とも行ってまいります。

かき氷大会の様子（三味線を披露してくれました！）



クリスマスケーキ飾りつけ大会の様子



課題/解決に向けての取り組み

HPを作成し、FacebookやLINEなどのSNSで活動記録や案内などを告知しています。その効果があり、LINEとHPから申し込まれる方が増えてきました。今はまだフードリボンの存在を知らない、本当に困っている子どもたちが安心してご飯を食べられるように、今後も周知活動が続けてまいります。

今後の展開

今後も子どもたちがおなかいっぱいご飯を食べられるように、お弁当をはじめとした食事の提供を行って参ります。昨年も好評だった「かき氷の飾りつけ」イベントや「クリスマスケーキ飾りつけ」イベントも開催し、食事の楽しさを知ってもらえる食育活動も併せて行ってまいります。

連携団体

子どもから地域に拡がれネットワーク

フードリボン協会

子ども食堂「絆」

問い合わせ

		 or 
info@sunfarm.co.jp	0964-28-3300 (担当者氏名) 森みのり 堀田朋代	

ぷらっとほーむ

活動を始めるきっかけ/活動概要

ぷらっとほーむは、学校に通えず、心に不安を感じている子どもや生活の中で息苦しさを
感じている子どもに対して、心が落ち着く居場所を提供しています。そんな、ぷらっとほー
むでは、夕食の提供を週 5 回平日に行っています。食事を囲むことで子ども自身がこれまで
体験したことや食事をする中で感じたことを共有しています。食事を通して、ぷらっとほ
ーむの子ども全員が人との繋がりを感じとることができる場の提供を目指しています。

重点的に取り組んだこと/成果

ぷらっとほーむに来てくれる子どもの募集と食事の提供を手伝ってくれるボランティア募
集を重点的に取り組んでいます。子どもの募集に関しては、以前より3人ほど多く参加して
くれるようになりました。ボランティアに関しては、大学等でチラシの配布や説明会等行い
7人ほどの大学生が新たに参加してくれるようになりました。

課題/解決に向けての取り組み

現在の課題点としては、食事の栄養バランスが少し偏っており、予算の都合上なかなか野
菜を取り入れることができずにいます。そのため、普段の活動に参加しているメンバーの家
庭や、ボランティアの家庭から野菜の提供などを協賛として、野菜不足を解消する対策を考
えています。また、よりこの活動のことを認知されていることがほとんどなく、参加してく
れる人も固定化されています。だから、広報活動もまずは周辺の家庭からこの活動について
知ってもらえるように、情報を随時発信していきます。

今後の展開

週5日の活動は継続的行います。また、熊本YMCA東部グローバルコミュニティプラザ
で行われている活動に参加している子どもたちにも食事の提供を積極的に行う予定です。ま
た、積極的に情報を発信して、地域の方々だけではなく多くの方との連携を図って、この活
動を盛り上げていくことができるようにしたいです。

連携団体

- ・熊本 YMCA 八代ワイズメンズクラブ
- ・熊本 YMCA N スピリットクラブ

問い合わせ

		 or 
plat_home@kumamoto-ymca.org	0963826661 (担当者氏名) 竹尾光平	https://qr.paps.jp/JM25h



おーさぁ子ども食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・地域の誰もがいつでも気軽に集い、支え合う地域の拠点を作る「地域の縁がわ」事業の一環として、近隣に多い子育て世帯を支援しようと考え、子ども食堂を始めました。
- ・原則毎月第4土曜日開催。
- ・大人300円、小中学生無料

重点的に取り組んだこと/成果

- ・近隣の民生委員の方が各地域の子供会等に声掛けをして下さり、当活動が地域連携の場としても活用されています。
- ・ボランティアとしてひきこもりの方や就労体験のない若者も参加され、良い社会体験の場となっています。

課題/解決に向けての取り組み

- ・食材の調達が最も大きな問題の為、他の子ども食堂様やフードバンク様との相互協力や、助成金を活用するなどしてこれに取り組んでいきたいです。

今後の展開

- ・地域の子どもと高齢者などの間で、盛んな世代間交流が起こる子ども食堂を目指したいと思います。

連携団体

TSUDOU.NET

フードバンクママトコ



問い合わせ

✉	☎	f or 📷
ogsaa-engawa@tenor.ocn.ne.jp	096-214-0003 (担当者氏名) 宮川いつ子 中尾大樹	

力西こども食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

実施場所である力合西校区は、核家族化や共働き世帯の家庭が増加している地域です。そのような世帯やこどもを主な対象とし、こどもの孤食や孤立を防ぎ、居場所を提供することを主な目的として、活動をはじめた。また、生活に困難を抱えるこどもの支援や多世代間交流も目的としています。

毎月第2土曜の10時から14時に、こども食堂を開催しています。こども達の孤食や孤立防止のために、食育の観点に配慮し、栄養バランスの取れた食事を提供する。また、ボランティアを幅広く募り、多世代間交流の実現を図っています。



重点的に取り組んだこと/成果

力合西小学校児童育成クラブと連携して平日昼間に実施することで、夏休みなどの長期休業時の家庭養育者の負担を軽減しています。

物価高騰に伴い、家計の負担が増しており、食がその影響をより大きく受けている中、電子レンジで温めるいわゆる「レンチン料理」や冷たいお弁当ではない「温かい食事」をこども食堂で提供し、それをみんなで食べるという環境をつくることで、こども達の身体をつくる大切な食の質を守りたいと思っています。

毎回のこども食堂には数十人から多いときでは100人以上が参加し、毎月継続して開催できています。



課題/解決に向けての取り組み

今以上に地域に根差した活動とすることが目標ですが、いまだ十分とはいえないことが課題です。この解決に向けて、校区の関係機関と積極的に連携し、活動を周知することで、理解や協力を得られるように取り組んでいます。

また活動資金が十分ではないことも課題の一つです。県のこども食堂ネットワークに加入し、情報や物資の提供を受ける。フードバンクから食材の提供を受ける。参加費を徴収する。活動を地域に周知し、食材や寄付金を募るなど、安定した運営ができるよう課題の解決に取り組んでいます。



今後の展開

令和5年度から実施をし始めたところ、予想以上に参加者が多く、こども食堂へのニーズを確認しました。今後、ボランティアの数を増やし活動の規模を拡大していきたいと考えています。

連携団体

力合西小学校、民生委員、力合西校区自治協議会、力合西小学校児童育成クラブ、力合西校区青少年健全育成協議会

問い合わせ

		 or 
	090-5726-2504 (担当者氏名) 竹下	



はぐくみ食堂

子どもも大人もどなたでもどうぞ。
あったか手作りご飯を作ってお待ちしています

活動始めるきっかけ/活動概要

【きっかけ】

2016年2月2日に帯山地区に「はぐくみ地域・子ども食堂帯山」をオープン。この時のきっかけは、子育て支援に加え、女性の創業支援・就労支援の一環でした。2021年8月に「はぐくみ地域・子ども食堂大江」をオープンしたきっかけは、それに加え、本業である障がい児さんが通う福祉事業所の課題でもあった「レスパイトケア」の取り組みが加わりました。またオープン当時、コロナ禍だったにもかかわらず、オープンしたのは、「はぐくみ地域・子ども食堂帯山」を訪れる利用者の声を聴いて、新たな拠点の必要性を感じたからです。

例えば、熊本駅方面から自転車でお野菜を取りに来られる方、コロナ禍でお子さんの学費の支払いに困っている親御さん等が帯山の食堂にこれまで多くいらっしゃっており、「街中に近く、アクセスが良い場所（大江）なら、さまざまな拠点として機能できるし、これまでよりも多くの方にお預かりしている品などを含め他の様々な支援を届けられるかもしれない」と思ったことがありました。

【活動概要】

・毎週土曜日の開催。帯山地区は、毎週土曜日のお昼ご飯。大江地区は、毎週土曜日の晩ご飯。はぐくみ食堂大江は、コロナ禍での期間限定の開催であったため、2024年12月で終了。「はぐくみ地域・子ども食堂帯山」は継続開催。

- ・会食
- ・フードパントリー
- ・食育教室
- ・学習支援
- ・おこづかい金銭教室
- ・少年少女発明クラブ
- ・大学生創業スクール

等々

重点的に取り組んだこと/成果

（重点的に取り組んだこと→成果）

- ・会食を通じた食育活動→毎回の会食時に「食事バランスガイド」等の必要性を、ご利用の保護者さん向けに説明継続したことで、認知度理解度が高まった。

また、3年間でお子さん方の身体の成長と共に、食育面での成長もみられた。
 具体的には、野菜等の好き嫌いのお子さんが減った、食事マナーの向上、他児の面倒も見る、片付けの積極的なお手伝い。等々が見られた。

- ・開催場所近隣への告知→校区の児童民生委員さん、ささえりあさんへの認知が広まり、ボランティアとしての協力、啓発啓蒙の協働事業実施につながった。



課題/解決に向けての取り組み

- ・会食等を通じて、ご利用者さん、ご利用児さんの話し、悩み等を聞く「傾聴」に特に重点的に取り組んだ。傾聴の重要性については、学生ボランティアの方々へも十分に説明した。傾聴を通じて、ご利用者さんに寄り添うことで、相手の立場・境遇の理解に近づき、個々の課題問題点を共有する事が可能となることがわかった。

今後の展開

- ・はぐくみ食堂大江を閉鎖し、はぐくみ食堂帯山に集約する事になり、今後は小規模な開催形式となる。しかしながら、より近く深く利用者さんに寄り添う事ができるものとする。
- ・会食だけでなく、学習支援・金銭教室・手作り教室などの既存の付加価値事業を高めたり、見守り事業等の新規事業にも取り組んでいきたい。

連携団体

- ・全国こども食堂支援センターむすびえ、・フードバンクママトコ、・イオン熊本中央店、・ビバホーム熊本中央店、・ささえりあ白川、・ムライチマンション、・ピザラ熊本中央店、・スターバックスコーヒージャパン、等

問い合わせ

✉	☎	f or 📷
hagukumi.komyu@gmail.com	090 -19591959-8725 (担当者) 野村公禎	https://www.facebook.com/hagukumikomyu/



一般社団法人こどもキッチンブルビー

活動始めるきっかけ/活動概要

地域で目の当たりにした子どもたちの孤食や、農家の方から規格外野菜の有効活用について相談を受けた事がきっかけで「こども食堂」を開設しました。

開設日：2016年2月

活動概要：こども・地域食堂（毎月第1・第3土曜日 11時～14時）

小学生の放課後の居場所（月曜日～金曜日 13時～18時）

ひとり親家庭支援・体験活動・その他

重点的に取り組んだこと/成果

拠点の広さを生かして食堂利用者やボランティアの受け入れを増やし、放課後の子どもたちの居場所を確保しました。

こども・地域食堂年間利用数 延べ人数2390名（こども1340名・大人1050名）

放課後の居場所年間利用数 延べ人数3121名（開所日数225日）

課題/解決に向けての取り組み

- ・利用者とのコミュニケーションを深める。その為に必要なボランティアスタッフの確保。
- ・子どもたちに様々な体験の場を提供する。

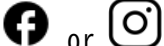
今後の展開

- ・団体、企業、行政との繋がりを更に広げ連携を図る。

連携団体

グリーンコープ生活協同組合くまもと・一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク
西南ロータリークラブ・シンママ応援団熊本・熊本農業高校・川尻小学校、城南中学校
川尻校区自治会 他

問い合わせ

		
kodomokitchenbluebee@gmail.com	070-5810-4568 (担当者氏名) 松枝 清美	https://www.facebook.com/ kodomokitchenbluebee/

子ども食堂ひまわり

活動を始めるきっかけ/活動概要

自身もシングルマザーでひとり抱え込み、戦っている時期がありました。我が子にしてあげたい事はたくさんあるのに、時間にもお金にも気持ちにも余裕がなく当たってしまい、寝顔を見ながら反省し落ち込む日々。食事の時間だけでも一緒にとの気持ちはありますが、食べてる間に家事をせざるおえない現実…。子ども食堂を通して少しでも気持ちに余裕を持ってもらえれば、ひとりで抱え込まず頼れる場所でありたい、バランスの良いご飯をお腹いっぱい食べてほしいとの想いで始めました。

- ・食事の提供
- ・体操教室、学習会、子育てイベントの開催
- ・夏祭りやクリスマス会などの季節イベントの開催
- ・フードパントリー

重点的に取り組んだこと/成果

- ・バランスの良い食事の提供
- ・「いただきます」「ごちそうさまでした」の言葉のかけあい
- ・食べたらさげる等のお手伝いを通して生活力の向上
- ・食育

課題/解決に向けての取り組み

- ・ボランティアスタッフ不足
- 子ども食堂の認知・理解をしてもらうチラシの掲示や場をさらに設けた

今後の展開

- ・夏祭りやクリスマス会など季節ごとのイベントをさらに盛り上げていきたい
- ・学習会や子育てイベントなど交流の場を提供したい

連携団体

一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク
フードバンク熊本

問い合わせ

		 or 
	090-9723-0054 (担当者氏名) 西田	

ふじとみふれあい食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

経済的な事情や保護者の就労形態等の事情によって、食事を十分に取れない、又は一人で孤独に食べている子どもや、一人暮らしの高齢者が多くいるため、そんな方々に食事を提供し、皆で食べる事により、話を聞いたり相談相手になったり、気を使わずに気軽に寄って楽しく食べることで、ゆっくりとくつろげる居場所作りが出来ればと思い開設しました。

地域住民の方々に食事の提供をしています

重点的に取り組んだこと/成果

年間メニュー表や日程を決定し、自治会やホームページで案内することにより利用しやすい環境を作った。また、毎月のお誕生月のケーキを準備したり、夏は「すいかわり」冬は「バーベキュー」のイベントをすることにより、足を運んで利用していただける方々が結果、増加した



【すいかわり】



【バーベキュー】

課題/解決に向けての取り組み

食堂利用料に対して、経費（食材費等）当団体の負担が大きい

今後の展開

地域に広がり、だれでも居場所作りを作りたい。そこで知り合い交流を深めてほしいと思います。

連携団体

熊本県こども食堂ネットワーク
フードバンク熊本
全国食支援活動協力会

問い合わせ

		 or 
fujitomi@poppy.ocn.ne.jp	096-357-5622 (代表：鬼塚静波)	

団体名	慶徳こども食堂実行委員会	地域食堂シュワーズ
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：4回 参加人数：160名（こども120名・大人40名） 実施場所である慶徳校区は、熊本市内でも若い世代の多い地域であり、新築マンションも多く共働き世帯の家庭が多い地域である。そのような世帯やこどもを主な対象とし、校区内での交流促進やこどもの孤食や孤立を防ぐことを主な目的とする。それとともに、生活に困難を抱えるこどもの支援も目的とする。校区内での交流促進やこども達の孤食や孤立防止のために、食育の観点に配慮した栄養バランスの取れた食事を提供する。	実施回数：41回 参加人数：295名（こども265名・大人30名） 実施場所である東区は福祉の街であり、ろう学校、盲学校を合わせ持ち、地域でも様々な交流がある。その一環としてミニ教室と食堂を通してふれ合いと繋がりを深める。こどもや大人の孤食や孤立防止、そしてなによりも、寝たきりゼロ運動を取り入れて活動する。
重点的に取り組んだこと/成果	イベントと同時にこども食堂を実施したので、こども達の参加者は多かった。また、保護者も積極的に参加して頂いた。 こども食堂を通じて、日頃会わないこども達同士の交流やこどもと地域住民の交流を図ることができた。	集うことの楽しさ、意味。学ぶことの大切さ、深み。つながりの重要性・拡がり等を皆様で共有できた。また、会食を通して、コミュニケーションを深めることができた。 「おいしい、楽しい。」という声が次第に増えた。
今後の課題・展開	令和6年4月に実行委員会を立ち上げたのちに、年間4回のこども食堂実施に向けて活動を行っていく。	利用者のニーズをつかみ、それに合わせて人員や食材等を確保していきたいと考えている。
連携団体	慶徳コミュニティセンター、慶徳小学校	実施場所近隣の幼稚園、健軍小学校、健軍中学校、健軍東小学校
団体名	清水子ども地域食堂	食の駅 のぐち
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：43回 参加人数：1,039名（こども916名・大人123名） 清水小学校区には食堂がなく、一人親家庭があり、また共働き世帯家庭も多くこどもの孤食や生活困難の支援を目的とする。 こどもの居場所、バランスのとれた食事の提供、学習支援など食育と生活力の向上を図ることを目的として実施する。	実施回数：25回 参加人数：138名（こども138名・大人0名） 子どもの貧困対策や孤食防止、地域住民の繋がりづくりや一人親世帯、生活困窮者の貧困対策を目的とする。 ・食事の提供 ・悩み事相談 ・食育活動 ・学習支援
重点的に取り組んだこと/成果	多世代のコミュニケーションが生まれ、高齢者の方々の幼児に対する知恵など新ママにプラスになり、居場所として活用いただいている。学習支援により小学生など下校時に宿題を済ませ食事をする生徒も増え、友達が増えてきた。小学校低学年から顔見知りとして見守ってます。	活動開始当初は参加者がなかなか集まらず、近隣の会社や知人の店舗でチラシ配布、口コミ等により徐々に周知していった。 年間延べ138名の参加があった。参加者の子供にメニューや調理を手伝ってもらい、子供達の協調性や物事に協力して活動を行うことで達成感を養うことができた。
今後の課題・展開	まだまだ啓発が足りず、子ども食堂ネットワーク事務局と協議を進めている。	弁当や野菜の無料配布等を展開していく。
連携団体	清水小学校	近隣の地域住民、協力会社

団体名	きずな	一般社団法人多世代交流スペース ミモザ
活動始めるきっかけ/活動概要	実施回数：33回 参加人数：940名（こども288名・大人652名） 実施場所である隈庄校区は核家族化や共働き世帯母子家庭が増加している。そのような世帯や子どもを主な対象とし地域とのつながりに結びつく場所を提供し、子どもの貧困対策、地域住民の幼児・高齢者までの孤食防止、障がいをもつ児童、ひきこもり不登校児童の居場所づくりを目的とする。 食の大切さと感謝、人との関わりや自分の価値や感謝される事により自己肯定感を高め食育と健康増進活動、多世代交流、生活力の向上を図ることを目的とし、学習支援、子育てアドバイス、お悩み相談又は行政に繋ぐ。	実施回数：32回 参加人数：810名（こども594名・大人216名） 経済格差がますます広がる中、子どもの生活はより深刻な状況に陥っている。また人と人の関係も希薄になり、老若男女を問わず孤独感を抱える人は多い。子どもに食と学習の場を提供し、学生から高齢者まで幅広い世代に学習と交流の場を提供することにより、子どもたちの未来の応援、高齢者の孤立化の防止及び社会的弱者に必要とされる支援を行い、地域社会に貢献することを目的とする。 ・子ども達の孤食や孤立防止のため、食育の観点に配慮し、栄養バランスの取れた食事を提供する。 ・子ども達に放課後や長期休暇中の学習の場を提供し、学習支援を行う。 ・フードパントリーなどにより、生活困窮家庭への支援を行う。
重点的に取り組んだこと/成果	子ども食堂の活動を通じて保護者の生活面・子育ての悩み、学習障害相談に対応、心のケアをすることにより、子育ての向上につながった。特に地域の方々からのご支援が増え、野菜や物資をお困りの家庭にお届けすることにより、子どもの状況を把握し支援することができた。英語教室利用の子どもに目標が無いことが多かったが、目標ができた子どもが増加した。	・多世代が集まるこども食堂を開催することにより、地区住民の交流が深まっている。 ・こども食堂終了後や放課後、こども達が遊び場として施設を利用、彼らの居場所の1つとなっている。 ・こども食堂や週1回のパンなどの配布、2か月に1回のフードパントリーの開催により、ひとり親家庭と緊密につながり、その結果、当初はミモザ来訪の際、暗く表情の乏しかったひとり親家庭の子ども達の表情が豊かになり、笑顔も見られるようになった。笑顔で手を振ってくれることも。 ・引きこもりの子どもがボランティアとしてこども食堂に参加し、家を一歩出るきっかけとなった。 ・多世代が集まるこども食堂にボランティアとして参加することにより、精神的な成長が見られたとの声をきく。
今後の課題・展開	開催するにあたり、地域の自治会や住民の方々に協力を依頼している。利用者とコミュニケーションを取り、希望や悩みの改善に繋がる活動をする。	・夏休みなどの長期休暇時のこども食堂開催頻度の拡大 ・放課後の学習支援時の軽食提供 ・寄贈などで集まった食材などを必要な方に定期的に配布（フードパントリー） ・今年度は壺川校区のみを対象として広報していたが、他の地区の方からの問い合わせなどもあり、城東、碩台、黒髪校区などにも対象を広げていく。
連携団体	隈庄校区児童育成クラブ、ひなたまっここ、社会福祉協議会 等	壺川小学校、町内会、コミュニティセンター、地区の郵便局、公民館、民生委員、PTA
団体名	はじっこがない食堂	こども地域食堂まんまる
活動始めるきっかけ/活動概要	実施回数：12回 参加人数：267名（こども170名・大人98名） 実施場所である世安は子ども、一人暮らしの高齢者ともに多く住んでおり、子ども食堂や地域食堂の開催を望む声が多くある地域である。そのような地域で、貧困や孤食問題の解決、居場所づくりを主な目的とする。 子どもたちの孤食防止のため、栄養バランスの取れた食事を月1回提供する。また、食堂内で楽しめるアクティビティを用意し、参加者同士の交流を図る。	実施回数：12回 参加人数：942名（こども394名・大人548名） こどもの居場所づくりと、こどもと高齢者の孤食防止、また、地域の世代間の交流の機会を増やし互いの絆を強化していくことを目的に活動を実施する。民生委員さんと連携することにより各町内での高齢者の一人暮らしの方や、経済的に困難を抱える人を把握し、必要な支援を行う。 ・月に一度会食の形で開催し、参加者とボランティアスタッフ含めて世代間の顔の見える関係を構築する。 ・こどもと一人暮らしの高齢者の孤食を防止し栄養バランスの良い食事を提供する ・こども食堂の場が「安心な居場所」として浸透していくことで悩みや困りごとを聞ける場所にし、家庭の問題に関しては必要に応じて福祉に結びつけられるように取り組む。
重点的に取り組んだこと/成果	子どもたちの居場所、親子の大切な時間、地域の方々繋がる場所として機能できた。はじめは少なかった利用者もリピーターが徐々に増えていき、その中でワークショップやご飯作りを利用者と一緒に行うことで、利用者同士が繋がるきっかけとなっている場面を何回も見えた。また、はじっこがない食堂としての活動だけでなく、地域の行事に積極的に参加し、お手伝いさせていただけることもあった。地域の方々からも「ありがとう」の声をいただくことが何度もあり、居場所を作り、地域を繋ぐ一つの組織として機能できたと感じている。	・活動開始から4年を超えると認知も浸透し新しく参加される方も増えた。高齢者さんの参加者が増えた一年であったが、高齢者さん同士が月に一度の安否確認をしながら楽しく話をされて食事をされている姿は我々運営者側としても嬉しい。 ・ボランティアスタッフも民生委員さんをはじめ、大学生ボランティアさん、まちづくりセンターの職員さん等協力者が増えて、毎月12から16名ほど、スタッフがお手伝いとして参加してくれる。運営側も老若男女の活気ある居場所になっている。
今後の課題・展開	子どもの利用者を増やしていくために、地域の住民も交えた食堂内のアクティビティを充実させていきたいと考えている。	食事の提供、居場所作り、交流の機会作りという主軸を大事に継続していく。
連携団体	近隣小学校、町内会	小学校、PTA、近隣保育園、主任児童員、民生委員

フードバンク熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

東京での活動・講演を聞き、「これは、大事なことだ!」と思い、全国フードバンク推進協議会に登録した。九州では、「北九州」「鹿児島」ですでにフードバンク活動を始められていたので、視察をし、「フードバンク熊本」をはじめた。

生活困窮支援団体・ひとり親家庭支援団体・児童養護施設・子ども食堂等に無料で食料の提供をしている。企業や一般家庭から無料で食料提供を受付している。

重点的に取り組んだこと/成果

自主財源確保のため賛助会費協力の働きかけを行った。
冷凍コンテナ・冷蔵ショーケースを確保し、受け入れ可能な食材が多様化し生活困窮団体や子ども食堂団体に寄贈することが増えた。



課題/解決に向けての取り組み

現在、園の職員で携わっているため、フードバンク専従者の確保をしたい。

今後の展開

子ども食堂団体の登録が増加傾向にあります。
食材・米等提供が拡大すればよいと思います。

連携団体

全国フードバンク推進協議会・行政・イオン九州・サンリブ・ゆめマート
JA 熊本中央会

特定非営利活動法人熊本県地域こども食堂支援センター

TSUDOU・NET



熊本県の地域食堂・こども食堂を応援する
特定非営利活動法人 熊本県地域こども食堂支援センター
TSUDOU・NET

活動を始めるきっかけ/活動概要

【きっかけ】

2016年2月、こども食堂開設予定の運営者が集まり、悩み事を相談したり、食材を分け合ったり、情報交換できる場が必要になると感じ発足したもの。

発足当時の団体名称は「子どもから地域へ拡がれネットワーク TSUDOU・NET」。

発足直後の2016年2月に熊本地震発災、また2020年7月に県南部での豪雨水害被災があり、こども食堂ができる炊出し等の支援活動を行なったことで、団体の活動が活発化した。

【活動概要】

- ・こども食堂の開設に係る立ち上げ支援（ヒト・モノ・カネ・情報・衛生管理等）
- ・こども食堂の持続的な運営に係る伴走支援
- ・地域の自治体・社協・各企業との連携・マッチング
- ・企業・個人からの寄付金・食材物資等の受付→各食堂への分配
- ・フードバンク事業
- ・「防災拠点×こども食堂」としての防災啓発活動。被災地支援活動。
- ・地域の伝統文化、郷土食の継承事業
- ・農水産業の六次産業化の支援事業
- ・「地域の縁がわづくり事業」「地域の結びづくり事業」の側面支援・連携事業
- ・要らなくなったランドセルの有効活用（ベトナム・ミャンマー等）

重点的に取り組んだこと/成果

（重点的に取り組んだこと→成果）

- ・各こども食堂との対話、アンケート→各食堂の課題の把握
- ・こども食堂の県内地域ネットワーク設立の支援→各地域の食堂同士の連携親睦
- ・防災啓発活動→ぼうさいこくたい2024（in 熊本）の機運醸成への寄与
- ・地域まちづくり事業への参画→中央区まちづくり事業への参画（企業等を結ぶ応援事業）
- ・フードバンク団体との連携→弊団体のフードバンク登録と、フードバンクママトコとの連携
- ・県内のこども食堂への食材物資の配送物流の円滑化→宅配業者、運送企業との協働で配送協力





課題/解決に向けての取り組み

- ・ アンケート結果の展開共有を団体内で行なった。
- ・ 各食堂が抱えている個別の課題については、できるだけ迅速に解決・アドバイスを行ない、包括的・抜本的な課題については、新設した地域ネットワーク内で共有したり、TSUDOU・NET の事業計画に落とし込んだりして解決できるように、解決のスキーム構築を行なった。

今後の展開

- ・ 食堂の市内未開設校区においては、引き続き、市こども政策課さんとの協働で立ち上げ支援を進めていく。
- ・ 既存の食堂への伴走支援については、今まで以上に食堂開催場所に足を運び、運営者・ボランティアから現場の声を聞いて、課題解決を進めていく。
- ・ 各食堂への食材・物資等の供給については、フードバンクとの連携強化に加え、個別企業、企業団体への協力を促していく。

連携団体

- ・ 全国こども食堂支援センターむすびえ ・ 熊本県ひとり親家庭福祉協議会
- ・ フードバンクママトコ ・ マイファーム ・ イオン九州 ・ イズミ
- ・ 一般財団法人くまもと SDGs 推進財団 ・ 熊本ビューストピンディーズ 等

問い合わせ

✉	☎	f or i
tsudounet.kumamoto.tiiki@gmail.com	070-1941-8008 (担当者) 野村公禎	https://www.facebook.com/tsudounet